

閲覧用



授業計画(シラバス)

コーセー美容専門学校

開講課程

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象	
美容本科	昼間部	昼間27期(2024年度)	1年2年	(前期) (後期)
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数	
必修科目	関係法規・制度	渡辺 演久	1単位	34時間

授業の到達目標及びテーマ

美容師になるために必要な法知識・法制度を修得するための講義を行う。とくに後期にあたっては、美容師試験合格を目指して、問題演習を数多く行う。

講義概要

社会生活における法の役割・衛生法規概説・衛生行政概説・衛生行政の種類と衛生行政機関・

美容師法(美容師法の目的・美容師法の付属法令・美容師法の運用にあたる行政機関・用語の定義・美容師に関する事項・

養成施設・美容師試験・美容師免許・管理美容師・美容師の義務)施設に関する規定(美容所、開設者が講ずべき衛生措置、美容所以外での業務)、

立入検査と環境衛生監視員、違反者に対する行政処分(業務停止、免許取消、閉鎖)、罰則、関連法規、国家試験対策演習

回

授業計画及び学習の内容

- 1 社会生活において法が果たす役割
- 2 衛生法規と衛生行政(保健所)について
- 3 美容師法の体系と用語について
- 4 美容師試験の内容及び免許に関する規定について
- 5 名簿の訂正、書き換え交付、再交付、返納、提出等について
- 6 管理美容師の職務・資格について
- 7 美容所の開設手続と地位の承継について
- 8 開設者に課せられた衛生措置について
- 9 特別の事情、立入検査の目的
- 10 行政処分の要件、罰則の要件、審査請求など
- 11 運営、衛生、消費者保護に関する法律について
- 12 国家試験対策

成績評価方法

期末試験100点満点として採点し、60点以下の学生は追試とする。

出席評価、素行不良などにより成績評価対象外となるので注意する事

授業の特徴・形式と教員紹介

講義形式を基本とする。国家試験に照準を合わせた授業を行い、適宜、質疑応答を交えるなどして理解の深化を図っている。

明治大学法律学科を卒業後、大学や専門学校で法律の講師として従事し現在に至る。

長い講師経験からくる授業はとても専門的であり、わかりやすい。

コーセー美容専門学校

開講課程

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象	
美容本科	昼間部	昼間27期(2023~2024年度)	1年2年	(前期) (後期)
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数	
必修科目	衛生管理・制度	広瀬 徹	3単位	99時間

授業の到達目標及びテーマ

美容上必要な衛生管理について理解することにより、美容師国家試験に合格すること。
・美容業に従事するプロフェッショナルとして社会的にも高く評価される人に育つこと。

講義概要

公衆衛生の意義と本質とを明らかにすること

美容師が公衆衛生の維持と増進とについて重大な責務を担わなければならない

特に、環境衛生の意義と目的について、美容師の業務と関連付けながら具体的に理解させる

回

授業計画及び学習の内容

1	公衆衛生	公衆衛生の意義と課題
2	公衆衛生	公衆衛生の発展の歴史
3	公衆衛生	理容師・美容師と公衆衛生
4	保険	母子、成人、高齢者、精神保健
5	環境衛生	環境衛生の概要
6	環境衛生	空気環境
7	環境衛生	衣服・住居の衛生
8	環境衛生	上下水道と廃棄物
9	環境衛生	衛生害虫とネズミ
10	環境衛生	環境保全
11	感染症の総論	人と感染症
12	感染症の総論	病原微生物
13	感染症の総論	感染症の予防
14	感染症の各論	理容・美容と感染症
15	感染症の各論	主な感染症
16	感染症の各論	具体的な対策の例
17	消毒法総論	消毒とは
18	消毒法総論	消毒の意義
19	消毒法総論	理容・美容の義務と消毒との関係
20	消毒法総論	消毒法と適用上の注意
21	消毒法各論	理学的消毒法(殺菌法)
22	消毒法各論	科学的消毒法(殺菌法)
23	消毒法各論	すぐれた消毒法とその実施上の注意
24	消毒法実習	各種消毒薬
25	消毒法実習	理容所の消毒の実際
26	消毒法実習	理容所・美容所の清潔法の実際
27	理容所及び美容所における衛生管理要領	第1目的～第4衛生的取扱い等
28	理容所及び美容所における衛生管理要領	第5消毒～第6自主管理体制
29	理・美容所の自主管理点検票	

成績評価方法

期末試験100点満点として採点し、60点以下の学生は追試とする。

出席評価、素行不良などにより成績評価対象外となるので注意する事

授業の特徴・形式と教員紹介

講義形式を基本とする。国家試験に照準を合わせた授業を行い、適宜、質疑応答を交えるなどして理解の深化を図っている。

獣医師免許の資格を有しており、その知識を生かした授業を展開する。

コーセー美容専門学校

開講課程

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象	
美容本科	昼間部	昼間27期(2023~2024年度)	1年2年	前期 後期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数	
必修科目	保健	村松 明子	3単位	99時間

授業の到達目標及びテーマ

美容師として必要な「人体の構造と機能、皮膚科学」に関する基礎を学習する。人体の生理解剖や皮膚・毛髪などの構造・生理機能の基礎を学ぶ。

講義概要

美容技術の基礎となる人体組織、特に皮膚及び毛髪などの皮膚付属器官の構造と機能に関する科学的、系統的な知識の習得を目的とする美容の業務を安全かつ効果的に行うためには、皮膚、毛髪などに関する正確な科学的知識が不可欠であることを理解させる

回

授業計画及び学習の内容

1	人体の構造及び機能	頭部、顔部、頸部、体表解剖学
2	人体の構造及び機能	骨角器系
3	人体の構造及び機能	筋系
4	人体の構造及び機能	神経系
5	人体の構造及び機能	感覚器系
6	人体の構造及び機能	血液・循環器系
7	人体の構造及び機能	呼吸器系
8	人体の構造及び機能	消化器系
9	皮膚科学	皮膚の構造
10	皮膚科学	皮膚付属器官の構造
11	皮膚科学	皮膚の循環器系と神経系
12	皮膚科学	皮膚と皮膚付属器官の生理機能
13	皮膚科学	皮膚と皮膚付属器官の保健
14	皮膚科学	皮膚と皮膚付属器官の疾患
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		

成績評価方法

期末試験100点満点として採点し、60点以下の学生は追試とする。
出席評価、素行不良などにより成績評価対象外となるので注意する事

授業の特徴・形式と教員紹介

講義形式を基本とする。国家試験に照準を合わせた授業を行い、適宜、質疑応答を交えるなどして理解の深化を図っている。
看護師としての長年のキャリアがあり知識は豊富である。授業の展開にもたけており、学生が興味を持ちそうなことを授業に盛り込み、学生の授業理解を深めている。

コーセー美容専門学校

開講課程

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象	
美容本科	昼間部	昼間27期(2023~2024年度)	1年2年	前期 後期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数	
必修科目	化粧品化学	堤 弘行	2単位	68時間

授業の到達目標及びテーマ

化粧品の原料や配合、性状、使用目的などについて理解させる。□
さらに化粧品の社会的意義や法的な根拠、製品の安全性に関する知識を深めさせる。
最終目標である国家試験合格に向け、問題解決の応用力を習得させる。

講義概要

化粧品の社会的意義と法規制、および化粧品の安定性と安全性に関して概説する。
化粧品原料(水性原料、油性原料、界面活性剤、高分子化合物、色材、香料etc)について解説する。□
化粧品の各製品形態(基礎化粧品、メイクアップ製品、頭髮化粧品、フレグランス製品、その他)ごとの特徴や配合成分を解説する。□

回 授業計画及び学習の内容

- 1 化粧品概論 化粧品の社会的意義と品質特性
- 2 化粧品概論 化粧品の規則
- 3 化粧品概論 化粧品の安定性と取扱い上の注意
- 4 化粧品概論 化粧品と安全性
- 5 化粧品用原料 化粧品の対象となる人体各部の性状
- 6 化粧品用原料 水性原料
- 7 化粧品用原料 油性原料
- 8 化粧品用原料 界面活性剤
- 9 化粧品用原料 高分子化合物
- 10 化粧品用原料 色材
- 11 化粧品用原料 香料
- 12 化粧品用原料 その他の配合成分
- 13 化粧品用原料 ネイル、まつ毛エクステンション用材料
- 14 基礎化粧品 皮膚清掃用化粧品
- 15 基礎化粧品 化粧水
- 16 基礎化粧品 クリーム乳液
- 17 基礎化粧品 その他の基礎化粧品
- 18 メイクアップ用化粧品 メイクアップ用化粧品の種類と剤形
- 19 メイクアップ用化粧品 ベースメイクアップ化粧品
- 20 メイクアップ用化粧品 ポイントメイクアップ化粧品
- 21 頭皮・毛髪用化粧品 シャンプー剤
- 22 頭皮・毛髪用化粧品 スタイリング剤
- 23 頭皮・毛髪用化粧品 パーマ剤
- 24 頭皮・毛髪用化粧品 ヘアカラー製品
- 25 頭皮・毛髪用化粧品 育毛剤
- 26 芳香製品と特殊化粧品 芳香製品
- 27 芳香製品と特殊化粧品 特殊化粧品
- 28 化粧品化学を理解するための基礎化学
- 29

成績評価方法

期末試験100点満点として採点し、60点以下の学生は追試とする。
出席評価、素行不良などにより成績評価対象外となるので注意する事

授業の特徴・形式と教員紹介

講義形式を基本とする。国家試験に照準を合わせた授業を行い、適宜、質疑応答を交えるなどして理解の深化を図っている。

理化学研究科を修了し、その後株式会社コーセーで化粧品に関わる業務に30年従事

そこから培われた知識を元に授業を展開する。

コーセー美容専門学校

開講課程

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象	
美容本科	昼間部	昼間27期(2023~2024年度)	1年2年	(前期) (後期)
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数	
必修科目	文化論	高田 実里	2単位	68時間

授業の到達目標及びテーマ

我が国における美容ファッションの変遷について学ぶ。造形の原理、造形と心理、美容における造形の意義
色彩の原理、色彩と心理、美容における色彩を学ぶ。

服飾の原理、美容における服飾の意義などについて理解させる

講義概要

美容業の使命の一人が、より優れた人間美の創造、実現にあることをよく認識させ、この使命の達成のために必要な美的感覚を身に付ける
これを洗練し、芸術的な表現力と鑑賞力を養う

美容の業務を全うするためには、確かな技術力を身に付けるとともに、豊かな感性に裏打ちされた優れた表現力を養うことが必要である

回	授業計画及び学習の内容
1	総論
2	日本の理容業・美容業の歴史 理容業・美容業の発生 江戸時代の理容業・美容業 近代の理容業・美容業 現代の理容業・美容業
3	ファッション文化史日本編 縄文、弥生、古墳時代 古代、中世、近世、近代、現代
4	ファッション文化史西洋編 近世、近代、現代
5	礼装の種類 和装、洋装の礼装
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	
17	
18	
19	
20	
21	
22	
23	
24	
25	
26	
27	
28	
29	
30	

成績評価方法

期末試験100点満点として採点し、60点以下の学生は追試とする。

出席評価、素行不良などにより成績評価対象外となるので注意する事

授業の特徴・形式と教員紹介

講義形式を基本とする。国家試験に照準を合わせた授業を行い、適宜、質疑応答を交えるなどして理解の深化を図っている。

平成29年から当校に就任し教員として当校に貢献をする。

就任した平成29年に日本理容美容教育センターによる美容文化論の教員資格研修を受講し資格を取得する。

常に知識を磨き学生からの信頼も厚い。授業も学生理解を主とし展開され分かりやすい授業だ

コーセー美容専門学校

開講課程

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象	
美容本科	昼間部	昼間27期(2023~2024年度)	1年2年	(前期) (後期)
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数	
必修科目	文化論	後藤 由歌	2単位	68時間

授業の到達目標及びテーマ

我が国における美容ファッションの変遷について学ぶ。造形の原理、造形と心理、美容における造形の意義
色彩の原理、色彩と心理、美容における色彩を学ぶ。

服飾の原理、美容における服飾の意義などについて理解させる

講義概要

美容業の使命の一人が、より優れた人間美の創造、実現にあることをよく認識させ、この使命の達成のために必要な美的感覚を身に付ける
これを洗練し、芸術的な表現力と鑑賞力を養う

美容の業務を全うするためには、確かな技術力を身に付けるとともに、豊かな感性に裏打ちされた優れた表現力を養うことが必要である

回	授業計画及び学習の内容
1	総論
2	日本の理容業・美容業の歴史 理容業・美容業の発生 江戸時代の理容業・美容業 近代の理容業・美容業 現代の理容業・美容業
3	ファッション文化史日本編 縄文、弥生、古墳時代 古代、中世、近世、近代、現代
4	ファッション文化史西洋編 近世、近代、現代
5	礼装の種類 和装、洋装の礼装
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	
17	
18	
19	
20	
21	
22	
23	
24	
25	
26	
27	
28	
29	
30	

成績評価方法

期末試験100点満点として採点し、60点以下の学生は追試とする。

出席評価、素行不良などにより成績評価対象外となるので注意する事

授業の特徴・形式と教員紹介

講義形式を基本とする。国家試験に照準を合わせた授業を行い、適宜、質疑応答を交えるなどして理解の深化を図っている。

美容室に長年勤務し、その後平成14年に当校の教員となり平成29年に日本理容美容教育センターによる

美容文化論の資格研修を受講し資格を取得する。サロン経験からくる美容の知識を駆使し授業が行われる。

コーセー美容専門学校

開講課程

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象	
美容本科	昼間部	昼間27期(2023~2024年度)	1年2年	(前期) (後期)
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数	
必修科目	美容技術理論	羽根田 祐弥	5単位	163時間

授業の到達目標及びテーマ

人間の手と器具の働き、美容器具の種類と特徴などについて理解させる
 コーム、ヘアブラシ、レザー及びヘアアイロンについて、その種類、各部の名称、使用目的
 形態と機能、選定法、研磨法、基本的操作法、手入れ法などを学ぶ

講義概要

美容技術についての知識を衛生的、能率的に実践する態度と習慣とを養い、工夫と創造の能力とを身に付けさせる
 美容器具の正しい取扱いの方法と美容の基礎的技術とを作業の実際に即して指導し習熟させる
 優れた美容技術は、経験によってだけ得られるものではなく、科学的合理的な方法によって把握されなければならないことを強調すること。

回 授業計画及び学習の内容

- 美容技術理論を学ぶにあたって 美容技術 作業姿勢 人体名称
美容用具 美容技術における用具 コーム、ブラシ、シザーズ、レザー、ピン類、ヘアクリップ、ロッド、ローラー、ヘアアイロン、ヘアドライヤー
ヘアスチーマー、遠赤外線機
- シャンプー シャンプー総論、サイドシャンプー、バックシャンプー、リンス・コンディショナー・トリートメント・スキャルプトリートメント、ヘッドスパ
- ヘアデザイン 美容とデザイン
ヘアカッティング シザーズとレザーの扱い方、美容刃物、プロッキング、ヘアカッティング理論、ベーシックなカット技法、シザーズによる技法
レザーによるカット技法
- パーマントウエービング パーマントウェーブ(歴史、現在、理論) パーマ剤(分類、注意事項)
パーマントウェーブ技術、ワインディングバリエーション、縮毛強制
- ヘアセッティング ヘアセッティングとは、ヘアパーティング、ヘアシェービング、ヘアカーリング、ヘアウエービング、ブロードドライ、アイロンセッティング、バックコーミング、アップスタイル、ウィッグとヘアピース
- ヘアカラーリング ヘアカラーリング概論、ヘアカラーの種類、ヘアカラーのタイプ別特徴、染毛のメカニズム、色の基本
毛髪のレベルとアンダートーン、パッチテスト、染毛剤使用時の注意事項、ヘアカラーリングの道具、酸化染毛剤の技術手順
酸性染毛料の技術手順、ヘアブリーチ

成績評価方法

期末試験100点満点として採点し、60点以下の学生は追試とする。
 出席評価、素行不良などにより成績評価対象外となるので注意する事

授業の特徴・形式と教員紹介

講義形式を基本とする。国家試験に照準を合わせた授業を行い、適宜、質疑応答を交えるなどして理解の深化を図っている。
 美容室に長年勤務し、その後平成18年に当校の教員となり、平成19年に美容技術理論の資格を取得する。
 今までの経験からくる美容の知識や、現在まで培われた国家試験のノウハウを駆使し授業が行われ
 国家試験でも多くの学生を合格に導いている。
 2023年度からは教務主任に就任し学校全体を支援するようになる

コーセー美容専門学校

開講課程

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象	
美容本科	昼間部	昼間27期(2023~2024年度)	1年2年	(前期) (後期)
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数	
必修科目	美容技術理論	尾花 洋子	5単位	163時間

授業の到達目標及びテーマ

人間の手と器具の働き、美容器具の種類と特徴などについて理解させる
 コーム、ヘアブラシ、レザー及びヘアアイロンについて、その種類、各部の名称、使用目的
 形態と機能、選定法、研磨法、基本的操作法、手入れ法などを学ぶ

講義概要

美容技術についての知識を衛生的、能率的に実践する態度と習慣とを養い、工夫と創造の能力とを身に付けさせる
 美容器具の正しい取扱いの方法と美容の基礎的技術とを作業の実際に即して指導し習熟させる
 優れた美容技術は、経験によってだけ得られるものではなく、科学的合理的な方法によって把握されなければならないことを強調すること。

回 授業計画及び学習の内容

- 美容技術理論を学ぶにあたって 美容技術 作業姿勢 人体名称
美容用具 美容技術における用具 コーム、ブラシ、シザーズ、レザー、ピン類、ヘアクリップ、ロッド、ローラー、ヘアアイロン、ヘアドライヤー
ヘアスチーマー、遠赤外線機
- シャンプー シャンプー総論、サイドシャンプー、バックシャンプー、リンス・コンディショナー・トリートメント・スカルプトリートメント、ヘッドスパ
- ヘアデザイン 美容とデザイン
ヘアカッティング シザーズとレザーの扱い方、美容刃物、プロッキング、ヘアカッティング理論、ベーシックなカット技法、シザーズによる技法
レザーによるカット技法
- パーマントウエービング パーマントウェーブ(歴史、現在、理論) パーマ剤(分類、注意事項)
パーマントウェーブ技術、ワインディングバリエーション、縮毛強制
- ヘアセッティング ヘアセッティングとは、ヘアパーティング、ヘアシェービング、ヘアカーリング、ヘアウエービング、ブロードドライ、アイロンセッティング、バックコーミング、アップスタイル、ウイッグとヘアピース
- ヘアカラーリング ヘアカラーリング概論、ヘアカラーの種類、ヘアカラーのタイプ別特徴、染毛のメカニズム、色の基本
毛髪のレベルとアンダートーン、パッチテスト、染毛剤使用時の注意事項、ヘアカラーリングの道具、酸化染毛剤の技術手順
酸性染毛料の技術手順、ヘアブリーチ

成績評価方法

期末試験100点満点として採点し、60点以下の学生は追試とする。
 出席評価、素行不良などにより成績評価対象外となるので注意する事

授業の特徴・形式と教員紹介

講義形式を基本とする。国家試験に照準を合わせた授業を行い、適宜、質疑応答を交えるなどして理解の深化を図っている。

平成11年より当校で教員として従事、美容技術理論、美容実習、美容保健、美容文化論、美容運営管理といった多くの資格を有し

幅広い知識の持ち主である。単元別に教員の采配をし学生の感性に訴えた授業を行う。

コーセー美容専門学校

開講課程

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象	
美容本科	昼間部	昼間27期(2023~2024年度)	1年2年	(前期) (後期)
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数	
必修科目	美容技術理論	高田 実里	5単位	163時間

授業の到達目標及びテーマ

人間の手と器具の働き、美容器具の種類と特徴などについて理解させる
 コーム、ヘアブラシ、レザー及びヘアアイロンについて、その種類、各部の名称、使用目的
 形態と機能、選定法、研磨法、基本的操作法、手入れ法などを学ぶ

講義概要

美容技術についての知識を衛生的、能率的に実践する態度と習慣とを養い、工夫と創造の能力とを身に付けさせる
 美容器具の正しい取扱いの方法と美容の基礎的技術とを作業の実際に即して指導し習熟させる
 優れた美容技術は、経験によってだけ得られるものではなく、科学的合理的な方法によって把握されなければならないことを強調すること。

回 授業計画及び学習の内容

- 美容技術理論を学ぶにあたって 美容技術 作業姿勢 人体名称
美容用具 美容技術における用具 コーム、ブラシ、シザーズ、レザー、ピン類、ヘアクリップ、ロッド、ローラー、ヘアアイロン、ヘアドライヤー
ヘアスチーマー、遠赤外線機
- シャンプー シャンプー総論、サイドシャンプー、バックシャンプー、リンス・コンディショナー・トリートメント・スキャルプトリートメント、ヘッドスパ
- ヘアデザイン 美容とデザイン
ヘアカッティング シザーズとレザーの扱い方、美容刃物、プロッキング、ヘアカッティング理論、ベーシックなカット技法、シザーズによる技法
レザーによるカット技法
- パーマントウエービング パーマントウエーブ(歴史、現在、理論) パーマ剤(分類、注意事項)
パーマントウエーブ技術、ワインディングバリエーション、縮毛強制
- ヘアセッティング ヘアセッティングとは、ヘアパーティング、ヘアシェービング、ヘアカーリング、ヘアウエービング、ブロードドライ、アイロンセッティング、バックコーミング、アップスタイル、ウィッグとヘアピース
- ヘアカラーリング ヘアカラーリング概論、ヘアカラーの種類、ヘアカラーのタイプ別特徴、染毛のメカニズム、色の基本
毛髪のレベルとアンダートーン、パッチテスト、染毛剤使用時の注意事項、ヘアカラーリングの道具、酸化染毛剤の技術手順
酸性染毛料の技術手順、ヘアブリーチ

成績評価方法

期末試験100点満点として採点し、60点以下の学生は追試とする。
 出席評価、素行不良などにより成績評価対象外となるので注意する事

授業の特徴・形式と教員紹介

講義形式を基本とする。国家試験に照準を合わせた授業を行い、適宜、質疑応答を交えるなどして理解の深化を図っている。

平成29年から当校に就任し教員として当校に貢献をする。

就任した平成30年に日本理容美容教育センターによる美容理論の教員資格研修を受講し資格を取得する。

常に知識を磨き学生からの信頼も厚い。授業も学生理解を主とし展開され分かりやすい授業だ

コーセー美容専門学校

開講課程

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象	
美容本科	昼間部	昼間27期(2023~2024年度)	1年2年	(前期) (後期)
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数	
必修科目	美容技術理論	山城 一史	5単位	163時間

授業の到達目標及びテーマ

人間の手と器具の働き、美容器具の種類と特徴などについて理解させる
 コーム、ヘアブラシ、レザー及びヘアアイロンについて、その種類、各部の名称、使用目的
 形態と機能、選定法、研磨法、基本的操作法、手入れ法などを学ぶ

講義概要

美容技術についての知識を衛生的、能率的に実践する態度と習慣とを養い、工夫と創造の能力とを身に付けさせる
 美容器具の正しい取扱いの方法と美容の基礎的技術とを作業の実際に即して指導し習熟させる
 優れた美容技術は、経験によってだけ得られるものではなく、科学的合理的な方法によって把握されなければならないことを強調すること。

回 授業計画及び学習の内容

- 美容技術理論を学ぶにあたって 美容技術 作業姿勢 人体名称
- 美容用具 美容技術における用具 コーム、ブラシ、シザーズ、レザー、ピン類、ヘアクリップ、ロッド、ローラー、ヘアアイロン、ヘアドライヤー
ヘアスチーマー、遠赤外線機
- シャンプー シャンプー総論、サイドシャンプー、バックシャンプー、リンス・コンディショナー・トリートメント・
スキャルプトリートメント、ヘッドスパ
- ヘアデザイン 美容とデザイン
ヘアカッティング シザーズとレザーの扱い方、美容刃物、プロッキング、ヘアカッティング理論、ベーシックなカット技法、シザーズによる技法
レザーによるカット技法
- パーマメントウエービング パーマメントウェーブ(歴史、現在、理論) パーマ剤(分類、注意事項)
パーマメントウェーブ技術、ワインディングバリエーション、縮毛強制
- ヘアセッティング ヘアセッティングとは、ヘアパーティング、ヘアシェービング、ヘアカーリング、ヘアウエービング、ブロードドライ、
アイロンセッティング、バックコーミング、アップスタイル、ウイッグとヘアピース
- ヘアカラーリング ヘアカラーリング概論、ヘアカラーの種類、ヘアカラーのタイプ別特徴、染毛のメカニズム、色の基本
毛髪のレベルとアンダートーン、パッチテスト、染毛剤使用時の注意事項、ヘアカラーリングの道具、酸化染毛剤の技術手順
酸性染毛料の技術手順、ヘアブリーチ

成績評価方法

期末試験100点満点として採点し、60点以下の学生は追試とする。
 出席評価、素行不良などにより成績評価対象外となるので注意する事

授業の特徴・形式と教員紹介

講義形式を基本とする。国家試験に照準を合わせた授業を行い、適宜、質疑応答を交えるなどして理解の深化を図っている。

美容室に長年の勤務経験があり、技能知識共に優秀な教員である。当校でも長年のキャリアを積んでベテランといえる存在である。

長年の教員経験から、理解を深める事、徹底させることに秀でている。

授業のICT化に対し先頭に立ち、教材のデジタル化、技術のデジタル化を進んで行っている

経験則からくる技術と知識、ICTなどの新しい技術を持ったハイブリットな教員である。

コーセー美容専門学校

開講課程

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象	
美容本科	昼間部	昼間27期(2023~2024年度)	1年2年	(前期) (後期)
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数	
必修科目	美容技術理論	山城 明子	5単位	163時間

授業の到達目標及びテーマ

人間の手と器具の働き、美容器具の種類と特徴などについて理解させる
 コーム、ヘアブラシ、レザー及びヘアアイロンについて、その種類、各部の名称、使用目的
 形態と機能、選定法、研磨法、基本的操作法、手入れ法などを学ぶ

講義概要

美容技術についての知識を衛生的、能率的に実践する態度と習慣とを養い、工夫と創造の能力とを身に付けさせる
 美容器具の正しい取扱いの方法と美容の基礎的技術とを作業の実際に即して指導し習熟させる
 優れた美容技術は、経験によってだけ得られるものではなく、科学的合理的な方法によって把握されなければならないことを強調すること。

回 授業計画及び学習の内容

- 1 美容技術理論を学ぶにあたって 美容技術 作業姿勢 人体名称
美容用具 美容技術における用具 コーム、ブラシ、シザーズ、レザー、ピン類、ヘアクリップ、ロッド、ローラー、ヘアアイロン、ヘアドライヤー
- 2 ヘアスチーマー、遠赤外線機
- 3 シャンプーイング シャンプーイング総論、サイドシャンプー、バックシャンプー、リンス・コンディショナー・トリートメント・スキャルプトリートメント、ヘッドスパ
- 4 ヘアデザイン 美容とデザイン
ヘアカッティング シザーズとレザーの扱い方、美容刃物、プロッキング、ヘアカッティング理論、ベーシックなカット技法、シザーズによる技法
- 5 レザーによるカット技法
- 6 パーマネントウエービング パーマネントウェーブ(歴史、現在、理論) パーマ剤(分類、注意事項)
パーマネントウェーブ技術、ワインディングバリエーション、縮毛強制
- 7 ヘアセッティング ヘアセッティングとは、ヘアパーティング、ヘアシェービング、ヘアカーリング、ヘアウエービング、ブロードドライ、アイロンセッティング、バックコーミング、アップスタイル、ウィッグとヘアピース
- 8 ヘアカラーリング ヘアカラーリング概論、ヘアカラーの種類、ヘアカラーのタイプ別特徴、染毛のメカニズム、色の基本
毛髪のレベルとアンダートーン、パッチテスト、染毛剤使用時の注意事項、ヘアカラーリングの道具、酸化染毛剤の技術手順
酸性染毛料の技術手順、ヘアブリーチ

成績評価方法

期末試験100点満点として採点し、60点以下の学生は追試とする。
 出席評価、素行不良などにより成績評価対象外となるので注意する事

授業の特徴・形式と教員紹介

講義形式を基本とする。国家試験に照準を合わせた授業を行い、適宜、質疑応答を交えるなどして理解の深化を図っている。

美容業界に長年勤務し、その後2019年に当校の教員となり現在まで従事している。

講師としてのキャリアも豊富であり、培われた国家試験のノウハウを駆使し授業を行っている。

学校のICT化の担当でもあり、技術を動画として残し、学校の未来のために奮闘する教員である。

コーセー美容専門学校

開講課程

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象	
美容本科	昼間部	昼間27期(2023~2024年度)	1年2年	(前期) (後期)
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数	
必修科目	美容技術理論	後藤 由歌	5単位	163時間

授業の到達目標及びテーマ

人間の手と器具の働き、美容器具の種類と特徴などについて理解させる
 コーム、ヘアブラシ、レザー及びヘアアイロンについて、その種類、各部の名称、使用目的
 形態と機能、選定法、研磨法、基本的操作法、手入れ法などを学ぶ

講義概要

美容技術についての知識を衛生的、能率的に実践する態度と習慣とを養い、工夫と創造の能力とを身に付けさせる
 美容器具の正しい取扱いの方法と美容の基礎的技術とを作業の実際に即して指導し習熟させる
 優れた美容技術は、経験によってだけ得られるものではなく、科学的合理的な方法によって把握されなければならないことを強調すること。

回 授業計画及び学習の内容

- 美容技術理論を学ぶにあたって 美容技術 作業姿勢 人体名称
- 美容用具 美容技術における用具 コーム、ブラシ、シザーズ、レザー、ピン類、ヘアクリップ、ロッド、ローラー、ヘアアイロン、ヘアドライヤー
ヘアスチーマー、遠赤外線機
- シャンプーイング シャンプーイング総論、サイドシャンプー、バックシャンプー、リンス・コンディショナー・トリートメント・スキャルプトリートメント、ヘッドスパ
- ヘアデザイン 美容とデザイン
ヘアカッティング シザーズとレザーの扱い方、美容刃物、プロッキング、ヘアカッティング理論、ベーシックなカット技法、シザーズによる技法
レザーによるカット技法
- パーマメントウエービング パーマメントウェーブ(歴史、現在、理論) パーマ剤(分類、注意事項)
パーマメントウェーブ技術、ワインディングバリエーション、縮毛強制
- ヘアセッティング ヘアセッティングとは、ヘアパーティング、ヘアシェービング、ヘアカーリング、ヘアウエービング、ブロードドライ、アイロンセッティング、バックコーミング、アップスタイル、ウイッグとヘアピース
- ヘアカラーリング ヘアカラーリング概論、ヘアカラーの種類、ヘアカラーのタイプ別特徴、染毛のメカニズム、色の基本
毛髪のレベルとアンダートーン、パッチテスト、染毛剤使用時の注意事項、ヘアカラーリングの道具、酸化染毛剤の技術手順
酸性染毛料の技術手順、ヘアブリーチ

成績評価方法

期末試験100点満点として採点し、60点以下の学生は追試とする。
 出席評価、素行不良などにより成績評価対象外となるので注意する事

授業の特徴・形式と教員紹介

講義形式を基本とする。国家試験に照準を合わせた授業を行い、適宜、質疑応答を交えるなどして理解の深化を図っている。
 美容室に長年勤務し、その後平成14年に当校の教員となり、同年に美容技術理論の資格を取得する。
 今までの経験からくる美容の知識や、現在まで培われた国家試験のノウハウを駆使し授業が行われ
 国家試験でも多くの学生を合格に導いている。
 当校の課長職にも就任し学校全体を見渡す存在になった。

コーセー美容専門学校

開講課程

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象	
美容本科	昼間部	昼間27期(2023~2024年度)	1年2年	(前期) (後期)
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数	
必修科目	運営管理	山城 一史	1単位	35時間

授業の到達目標及びテーマ

経営戦略の基本的理論について、美容業における実例を交えて理解させる
 社会生活におけるエチケットの必要性、職場など社会生活の各局面におけるエチケットなどについて理解させる
 美容業における接客の意義と技術について具体的事例を挙げながら学ばせる

講義概要

経営管理の基本的事項を学習することによって、美容業における科学的な経営管理手法の重要性を認識させ、美容所の経営に役立たせること
 美容業において、適切な接客態度がいかに重要であるかを自覚させるとともに、消費者対応の基本を学ばせ、実践する能力を身に付けさせること

回 授業計画及び学習の内容

- 1 経営とは・経営者とは 経営が必要とされる理由
- 2 経営とは・経営者とは 継続が難しい理由=経営が必要な理由
- 3 経営とは・経営者とは 経営とは何か
- 4 経営とは・経営者とは 経営資源と経営計画
- 5 経営とは・経営者とは 経営戦略
- 6 経営とは・経営者とは 経営戦略が目指すもの、顧客に選ばれるよい店の実現
- 7 理容業・美容業の経営について 業界の概要
- 8 理容業・美容業の経営について 競争の変化
- 9 理容業・美容業の経営について サービスとして理容・美容
- 10 理容業・美容業の経営について 理容業・美容業の顧客について
- 11 資金と管理 資金管理の重要性
- 12 資金と管理 収支と損益 会計の考え方 コストを管理する 税金について
- 13 人という資源 人という資源とは 人の能力を高める 人をやる気にさせるために
- 14 人という資源 給与 待遇・福利厚生 労働者の権利
- 15 健康・安全な職場環境の実現 健康管理の基礎
- 16 健康・安全な職場環境の実現 理容・美容の仕事と健康
- 17 健康・安全な職場環境の実現 理容業・美容業に特徴的な健康課題
- 18 健康・安全な職場環境の実現 理容・美容の仕事と健康美容の作業環境に関する健康問題
- 19 従業員としての視点から 社会人としての責任・理容業・美容業の従業員としての責任
- 20 従業員としての視点から 社会保険～公的年金～ ～医療保険～ ～労働保険～
- 21 従業員としての視点から キャリアプランの重要性
- 22 従業員としての視点から 仕事をするうえで考えるべきこと
- 23 サービスデザイン 顧客が求める価値 価値の実態 顧客満足の実現のためのシステム 最も重要な価値:人
- 24 サービスデザイン 価値の多様性 顧客が求めるもの サービスの範囲 理容業・美容業のマーケティング
- 25 マーケティング マーケティング・ミックス
- 26 マーケティング マーケティング・ミックスの要因 短期的要因① 短期的要因② 長期的要因① 長期的要因② サービスのシステム化
- 27 サービスにおける人の役割 接客についての理解、よい接客のために
- 28 サービスにおける人の役割 接客の実践①②③④⑤
- 29 サービスにおける人の役割 接客におけるトラブルと対応、接客で発生が予想される問題
- 30 サービスにおける人の役割 問題を深刻化させないための対策・対処

成績評価方法

期末試験100点満点として採点し、60点以下の学生は追試とする。
 出席評価、素行不良などにより成績評価対象外となるので注意する事

授業の特徴・形式と教員紹介

講義形式を基本とする。国家試験に照準を合わせた授業を行い、適宜、質疑応答を交えるなどして理解の深化を図っている。

美容室に長年の勤務経験があり、技能知識共に優秀な教員である。当校でも長年のキャリアを積んでベテランといえる存在である。

長年の教員経験から、理解を深める事、徹底させることに秀でている。

授業のICT化に対し先頭に立ち、教材のデジタル化、技術のデジタル化を進んで行っている

経験則からくる技術と知識、ICTなどの新しい技術を持ったハイブリットな教員である。

添付書類② 実務経験のある教員等による授業科目の授業計画(シラバス)

コーセー美容専門学校

開講課程

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象	
美容本科	昼間部	昼間27期(2023~2024年度)	前期	後期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数	
必修科目	美容実習	後藤 由歌	30単位	981時間

授業の到達目標及びテーマ

美容の業務を安全かつ効果的に実施する技術を習得するため、基本的操作を確実に身に付けさせ、理解することにより、美容師国家試験に合格すること。

・美容業に従事するプロフェッショナルとして社会的にも高く評価される人に育つこと。

講義概要

美容の業務を安全かつ効果的に実施する技術を習得するため、基本的操作を確実に身に付けさせるとともに、これらの基本的操作を適宜組み合わせることで完成させる技術を習得させること美容所における衛生管理の重要性を認識させ、器具の消毒などの適切な実施方法を身に付けさせること。個々の客の要望に応じた美容技術を確実に提供できるよう総合的な技術の基礎を身に付けさせること。

回	授業計画及び学習の内容
1	ワインディング基礎技術
2	ブロッキング技術
3	上巻き
4	下巻き
5	全体構成
6	タイム計測
7	セット技術
8	カーラー・ホットカラー
9	編み込テクニック
10	シニヨン
11	トップシニヨン
12	ネーブシニヨン
13	ロールシニヨン
14	ワンロール
15	夜会巻き
16	抱き合わせ
17	アイロンテクニック
18	ブライダルヘアテクニック
19	シャンプー・ブロー技術
20	サイドシャンプー
21	バックシャンパー
22	ブローテクニック
23	ハンドブローテクニック
24	スタイリング剤の使い方
25	ヘアカラーリング基礎技術
26	ファッションカラー(ワンタッチ・リタッチ技術)
27	グレイヘア(リタッチ技術)
28	酸性カラー
29	ヘアカラーリング応用技術(ブリーチ・ウィービング・メッシュテクニック他)
30	パーマントウェーブ基礎技術(デザイン巻きテクニック)
31	パーマントウェーブ応用技術
32	ヘアカッティング技術(ワンレングス・グラデーション・レイヤーカット)
33	国家試験第1課題(レイヤーカッティング)
34	国家試験第2課題(オールウェーブセッティング・ワインディング)
35	国家試験対策授業

成績評価方法

期末試験100点満点として採点する。授業態度の総合評価
出席評価、素行不良などにより成績評価対象外となるので注意する事

授業の特徴・形式と教員紹介

基礎技術から応用技術まで、実技理論に基づきモデルウィッグを使ってのトレーニングを行い、相モデル形式での実践トレーニングなど適宜取り入れる。

美容室に長年勤務し、その後平成14年に当校の教員となり、平成15年に美容実習の資格を取得する。

今までの経験から美容の知識や、現在まで培われた国家試験のノウハウを駆使し授業が行われ

国家試験でも多くの学生を合格に導いている。

当校の課長職にも就任し学校全体を見渡す存在になった。

添付書類② 実務経験のある教員等による授業科目の授業計画(シラバス)

コーセー美容専門学校

開講課程

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象	
美容本科	昼間部	昼間27期(2023~2024年度)	前期	後期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数	
必修科目	美容実習	羽根田 祐弥	30単位	981時間

授業の到達目標及びテーマ

美容の業務を安全かつ効果的に実施する技術を習得するため、基本的操作を確実に身に付けさせ、理解することにより、美容師国家試験に合格すること。

・美容業に従事するプロフェッショナルとして社会的にも高く評価される人に育つこと。

講義概要

美容の業務を安全かつ効果的に実施する技術を習得するため、基本的操作を確実に身に付けさせるとともに、これらの基本的操作を適宜組み合わせることで完成させる技術を習得させること美容所における衛生管理の重要性を認識させ、器具の消毒などの適切な実施方法を身に付けさせること。個々の客の要望に応じた美容技術を確実に提供できるよう総合的な技術の基礎を身に付けさせること。

回	授業計画及び学習の内容
1	ワインディング基礎技術
2	ブロッキング技術
3	上巻き
4	下巻き
5	全体構成
6	タイム計測
7	セット技術
8	カーラー・ホットカラー
9	編み込テクニック
10	シニヨン
11	トップシニヨン
12	ネーブシニヨン
13	ロールシニヨン
14	ワンロール
15	夜会巻き
16	抱き合わせ
17	アイロンテクニック
18	ブライダルヘアテクニック
19	シャンプー・ブロー技術
20	サイドシャンプー
21	バックシャンパー
22	ブローテクニック
23	ハンドブローテクニック
24	スタイリング剤の使い方
25	ヘアカラーリング基礎技術
26	ファッションカラー(ワンタッチ・リタッチ技術)
27	グレイヘア(リタッチ技術)
28	酸性カラー
29	ヘアカラーリング応用技術(ブリーチ・ウィービング・メッシュテクニック他)
30	パーマントウェーブ基礎技術(デザイン巻きテクニック)
31	パーマントウェーブ応用技術
32	ヘアカッティング技術(ワンレンガス・グラデーション・レイヤーカット)
33	国家試験第1課題(レイヤーカッティング)
34	国家試験第2課題(オールウェーブセッティング・ワインディング)
35	国家試験対策授業

成績評価方法

期末試験100点満点として採点する。授業態度の総合評価
出席評価、素行不良などにより成績評価対象外となるので注意する事

授業の特徴・形式と教員紹介

基礎技術から応用技術まで、実技理論に基づきモデルウィッグを使ってのトレーニングを行い、相モデル形式での実践トレーニングなど適宜取り入れる。

美容室に長年勤務し、その後平成18年に当校の教員となり、平成19年に美容技術理論の資格を取得する。

今までの経験からくる美容の知識や、現在まで培われた国家試験のノウハウを駆使し授業が行われ

国家試験でも多くの学生を合格に導いている。

2023年度からは教務主任に就任し学校全体を支援するようになる

添付書類② 実務経験のある教員等による授業科目の授業計画(シラバス)

コーセー美容専門学校

開講課程

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象	
美容本科	昼間部	昼間27期(2023~2024年度)	前期	後期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数	
必修科目	美容実習	山城 明子	30単位	981時間

授業の到達目標及びテーマ

美容の業務を安全かつ効果的に実施する技術を習得するため、基本的操作を確実に身に付けさせ、理解することにより、美容師国家試験に合格すること。

・美容業に従事するプロフェッショナルとして社会的にも高く評価される人に育つこと。

講義概要

美容の業務を安全かつ効果的に実施する技術を習得するため、基本的操作を確実に身に付けさせるとともに、これらの基本的操作を適宜組み合わせることで完成させる技術を習得させること美容所における衛生管理の重要性を認識させ、器具の消毒などの適切な実施方法を身に付けさせること。個々の客の要望に応じた美容技術を確実に提供できるよう総合的な技術の基礎を身に付けさせること。

回	授業計画及び学習の内容
1	ワインディング基礎技術
2	ブロッキング技術
3	上巻き
4	下巻き
5	全体構成
6	タイム計測
7	セット技術
8	カーラー・ホットカラー
9	編み込テクニック
10	シニヨン
11	トップシニヨン
12	ネーブシニヨン
13	ロールシニヨン
14	ワンロール
15	夜会巻き
16	抱き合わせ
17	アイロンテクニック
18	ブライダルヘアテクニック
19	シャンプー・ブロー技術
20	サイドシャンプー
21	バックシャンパー
22	ブローテクニック
23	ハンドブローテクニック
24	スタイリング剤の使い方
25	ヘアカラーリング基礎技術
26	ファッションカラー(ワンタッチ・リタッチ技術)
27	グレイヘア(リタッチ技術)
28	酸性カラー
29	ヘアカラーリング応用技術(ブリーチ・ウィービング・メッシュテクニック他)
30	パーマントウェーブ基礎技術(デザイン巻きテクニック)
31	パーマントウェーブ応用技術
32	ヘアカッティング技術(ワンレングス・グラデーション・レイヤーカット)
33	国家試験第1課題(レイヤーカッティング)
34	国家試験第2課題(オールウェーブセッティング・ワインディング)
35	国家試験対策授業

成績評価方法

期末試験100点満点として採点する。授業態度の総合評価

出席評価、素行不良などにより成績評価対象外となるので注意する事

授業の特徴・形式と教員紹介

基礎技術から応用技術まで、実技理論に基づきモデルウィッグを使ってのトレーニングを行い、相モデル形式での実践トレーニングなど適宜取り入れる。

美容業界に長年勤務し、その後2019年に本校の教員となり現在まで従事している。

講師としてのキャリアも豊富であり、培われた国家試験のノウハウを駆使し授業を行っている。

学校のICT化の担当でもあり、技術を動画として残し、学校の未来のために奮闘する教員である。

添付書類② 実務経験のある教員等による授業科目の授業計画(シラバス)

コーセー美容専門学校

開講課程

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象	
美容本科	昼間部	昼間27期(2023~2024年度)	前期	後期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数	
必修科目	美容実習	尾花 洋子	30単位	981時間

授業の到達目標及びテーマ

美容の業務を安全かつ効果的に実施する技術を習得するため、基本的操作を確実に身に付けさせ、理解することにより、美容師国家試験に合格すること。

・美容業に従事するプロフェッショナルとして社会的にも高く評価される人に育つこと。

講義概要

美容の業務を安全かつ効果的に実施する技術を習得するため、基本的操作を確実に身に付けさせるとともに、これらの基本的操作を適宜組み合わせることで完成させる技術を習得させること美容所における衛生管理の重要性を認識させ、器具の消毒などの適切な実施方法を身に付けさせること。個々の客の要望に応じた美容技術を確実に提供できるよう総合的な技術の基礎を身に付けさせること。

回	授業計画及び学習の内容
1	ワインディング基礎技術
2	ブロッキング技術
3	上巻き
4	下巻き
5	全体構成
6	タイム計測
7	セット技術
8	カーラー・ホットカラー
9	編み込テクニック
10	シニヨン
11	トップシニヨン
12	ネーブシニヨン
13	ロールシニヨン
14	ワンロール
15	夜会巻き
16	抱き合わせ
17	アイロンテクニック
18	ブライダルヘアテクニック
19	シャンプー・ブロー技術
20	サイドシャンプー
21	バックシャンパー
22	ブローテクニック
23	ハンドブローテクニック
24	スタイリング剤の使い方
25	ヘアカラーリング基礎技術
26	ファッションカラー(ワンタッチ・リタッチ技術)
27	グレイヘア(リタッチ技術)
28	酸性カラー
29	ヘアカラーリング応用技術(ブリーチ・ウィービング・メッシュテクニック他)
30	パーマメントウェーブ基礎技術(デザイン巻きテクニック)
31	パーマメントウェーブ応用技術
32	ヘアカッティング技術(ワンレングス・グラデーション・レイヤーカット)
33	国家試験第1課題(レイヤーカッティング)
34	国家試験第2課題(オールウェーブセッティング・ワインディング)
35	国家試験対策授業

成績評価方法

期末試験100点満点として採点する。授業態度の総合評価

出席評価、素行不良などにより成績評価対象外となるので注意する事

授業の特徴・形式と教員紹介

基礎技術から応用技術まで、実技理論に基づきモデルウィッグを使ってのトレーニングを行い、相モデル形式での実践トレーニングなど適宜取り入れる。

平成11年より当校で教員として従事、美容技術理論、美容実習、美容保健、美容文化論、美容運営管理といった多くの資格を有して博識であり、そこからくる授業はより深い学びにつながっており、国家試験でも多くの学生を合格に導いている。

添付書類② 実務経験のある教員等による授業科目の授業計画(シラバス)

コーセー美容専門学校

開講課程

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象	
美容本科	昼間部	昼間27期(2023~2024年度)	前期	後期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数	
必修科目	美容実習	高田 実里	30単位	981時間

授業の到達目標及びテーマ

美容の業務を安全かつ効果的に実施する技術を習得するため、基本的操作を確実に身に付けさせ、理解することにより、美容師国家試験に合格すること。

・美容業に従事するプロフェッショナルとして社会的にも高く評価される人に育つこと。

講義概要

美容の業務を安全かつ効果的に実施する技術を習得するため、基本的操作を確実に身に付けさせるとともに、これらの基本的操作を適宜組み合わせることで完成させる技術を習得させること美容所における衛生管理の重要性を認識させ、器具の消毒などの適切な実施方法を身に付けさせること。個々の客の要望に応じた美容技術を確実に提供できるよう総合的な技術の基礎を身に付けさせること。

回	授業計画及び学習の内容
1	ワインディング基礎技術
2	ブロッキング技術
3	上巻き
4	下巻き
5	全体構成
6	タイム計測
7	セット技術
8	カーラー・ホットカラー
9	編み込テクニック
10	シニヨン
11	トップシニヨン
12	ネーブシニヨン
13	ロールシニヨン
14	ワンロール
15	夜会巻き
16	抱き合わせ
17	アイロンテクニック
18	ブライダルヘアテクニック
19	シャンプー・ブロー技術
20	サイドシャンプー
21	バックシャンパー
22	ブローテクニック
23	ハンドブローテクニック
24	スタイリング剤の使い方
25	ヘアカラーリング基礎技術
26	ファッションカラー(ワンタッチ・リタッチ技術)
27	グレイヘア(リタッチ技術)
28	酸性カラー
29	ヘアカラーリング応用技術(ブリーチ・ウィービング・メッシュテクニック他)
30	パーマントウェーブ基礎技術(デザイン巻きテクニック)
31	パーマントウェーブ応用技術
32	ヘアカッティング技術(ワンレングス・グラデーション・レイヤーカット)
33	国家試験第1課題(レイヤーカッティング)
34	国家試験第2課題(オールウェーブセッティング・ワインディング)
35	国家試験対策授業

成績評価方法

期末試験100点満点として採点する。授業態度の総合評価
出席評価、素行不良などにより成績評価対象外となるので注意する事

授業の特徴・形式と教員紹介

基礎技術から応用技術まで、実技理論に基づきモデルウィッグを使ってのトレーニングを行い、相モデル形式での実践トレーニングなど適宜取り入れる。

平成29年から当校に就任し教員として当校に貢献をする。

就任した平成30年に日本理容美容教育センターによる美容理論の教員資格研修を受講し資格を取得する。

常に知識を磨き学生からの信頼も厚い。授業も学生理解を主とし展開され分かりやすい授業だ

添付書類② 実務経験のある教員等による授業科目の授業計画(シラバス)

コーセー美容専門学校

開講課程

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象	
美容本科	昼間部	昼間27期(2023～2024年度)	前期	後期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数	
必修科目	美容実習	山城 一史	30単位	981時間

授業の到達目標及びテーマ

美容の業務を安全かつ効果的に実施する技術を習得するため、基本的操作を確実に身に付けさせ、理解することにより、美容師国家試験に合格すること。

・美容業に従事するプロフェッショナルとして社会的にも高く評価される人に育つこと。

講義概要

美容の業務を安全かつ効果的に実施する技術を習得するため、基本的操作を確実に身に付けさせるとともに、これらの基本的操作を適宜組み合わせることで完成させる技術を習得させること美容所における衛生管理の重要性を認識させ、器具の消毒などの適切な実施方法を身に付けさせること。個々の客の要望に応じた美容技術を提供できるよう総合的な技術の基礎を身に付けさせること。

回	授業計画及び学習の内容
1	ワインディング基礎技術
2	ブッキング技術
3	上巻き
4	下巻き
5	全体構成
6	タイム計測
7	セット技術
8	カーラー・ホットカラー
9	編み込テクニック
10	シニヨン
11	トップシニヨン
12	ネープシニヨン
13	ロールシニヨン
14	ワンロール
15	夜会巻き
16	抱き合わせ
17	アイロンテクニック
18	ブライダルヘアテクニック
19	シャンプー・ブロー技術
20	サイドシャンプー
21	バックシャンパー
22	ブローテクニック
23	ハンドブローテクニック
24	スタイリング剤の使い方
25	ヘアカラーリング基礎技術
26	ファッションカラー(ワンタッチ・リタッチ技術)
27	グレイヘア(リタッチ技術)
28	酸性カラー
29	ヘアカラーリング応用技術(ブリーチ・ウィービング・メッシュテクニック他)
30	パーマウェーブ基礎技術(デザイン巻きテクニック)
31	パーマウェーブ応用技術
32	ヘアカッティング技術(ワンレングス・グラデーション・レイヤーカット)
33	国家試験第1課題(レイヤーカッティング)
34	国家試験第2課題(オールウェーブセッティング・ワインディング)
35	国家試験対策授業

成績評価方法

期末試験100点満点として採点する。授業態度の総合評価
出席評価、素行不良などにより成績評価対象外となるので注意する事

授業の特徴・形式と教員紹介

基礎技術から応用技術まで、実技理論に基づきモデルウィッグを使ってのトレーニングを行い、相モデル形式での実践トレーニングなど適宜取り入れる。

美容室に長年の勤務経験があり、技能知識共に優秀な教員である。当校でも長年のキャリアを積んでベテランといえる存在である。

長年の教員経験から、理解を深める事、徹底させることに秀でている。

授業のICT化に対し先頭に立ち、教材のデジタル化、技術のデジタル化を進んで行っている
経験則からくる技術と知識、ICTなどの新しい技術を持ったハイブリットな教員である。

コーセー美容専門学校

開講課程

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象	
美容本科	昼間部	昼間27期(2023~2024年度)	1年2年	(前期) (後期)
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数	
必修科目	アドバンスプログラム	尾花 洋子	20単位	745時間

授業の到達目標及びテーマ

必修科目において習得した基礎的な専門知識や技術を基に、さらに高度な専門知識や技術を身に付けさせる高度な美容技術を確実に実施する能力を身に付ける

講義概要

一般教養科目は、社会生活における基本的規範やコミュニケーション技術などを学ぶことによって、

社会人としての心構えを養い、さらに、専門的技術者としての自覚を促すとともに、芸術、文化など幅広い教養を身に付けることによって、人間性豊かな人格の形成を目指すものであること。

専門教育科目は、必修科目において習得した基礎的な専門知識や技術を基に、さらに高度な専門知識や技術を身に付けさせるものであること科学的基礎に裏付けられた高度な美容技術を確実に実施する能力を身に付けるばかりでなく、これらを応用して新たな技術を開発するための総合的能力を習得させること。

回

授業計画及び学習の内容

- 1 エステティック 皮膚の生理と構造 カウンセリング マッサージ理論 フェイシャルケア技術 フェイシャル及びデコルテマッサージ
- 2 エステティック フェイシャルパック ボディケア技術 ボディマッサージ
- 3 ネイル技術 ネイル技術概論、ネイル技術の種類、詰め構造と機能、詰めのカット形状、ネイル技術と公衆衛生
- 4 ネイル技術 カウンセリング、ネイルケア、アーティフィシャルネイル、手と足のマッサージ
- 5 メイクアップ メイクアップ概論、顔の形態学的な観察、メイクアップと色彩、皮膚の生理と構造、メイクアップの道具
- 6 メイクアップ スキンケア、ベースメイクアップ、アイメイクアップ、アイブロウメイクアップ
- 7 メイクアップ リップメイクアップ、ブラッシュオンメイクアップ、まつ毛エクステンション
- 8 日本髪 日本髪の由来、日本髪の各部の名称、日本髪の種類と特徴、日本髪と調和
- 9 日本髪 日本髪の装飾品、日本髪の結髪道具、日本髪の手入れ、かつら
- 10 着付けの理論と技術 着付けの目的、礼装、着物と季節、着物のいろいろ、帯、小物
- 11 着付けの理論と技術 着物各部の名称、着物のたたみ方、着付けの一般的要領
- 12 着付けの理論と技術 留袖着付け技術、振袖着付け技術、帯締め、帯揚げの結び方
- 13 着付けの理論と技術 男子礼装羽織、袴着付け技術、羽織の紐の結び方
- 14 着付けの理論と技術 女子袴着付け技術、婚礼着付けの注意事項
- 15 着付けの理論と技術 和装花嫁、洋装花嫁
- 16 美容モード理論 ファッション学 基礎、応用
- 17 美容モード理論 パーソナルカラー 基礎 応用
- 18 美容モード理論 ヘアデザイン
- 19 プロフェッショナルビューティワーク
- 20 クリエイティブメイク
- 21 ビューティコンサルタント
- 22 パーツビューティ
- 23

成績評価方法

期末試験100点満点または作品提出で採点する。授業態度の総合評価
出席評価、素行不良などにより成績評価対象外となるので注意する事

授業の特徴・形式と教員紹介

メイクアップ: エステティック技法、ネイル技術、着付け、メイクアップ技術を、座学と技術を駆使して進めていく。

トータルビューティ: ファッション学、パーソナルカラー、ヘアデザインに対して美容実習、文化論で学んだ基礎の応用を学ぶ。

アドバンスプログラム: 専門的な技術の習得を目指す。

平成11年より当校で教員として従事、美容技術理論、美容実習、美容保健、美容文化論、美容運営管理といった多くの資格を有し

幅広い知識の持ち主である。単元別に教員の采配をし学生の感性に訴えた授業を行う。

コーセー美容専門学校

開講課程

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象	
美容本科	昼間部	昼間28期(2024~2025年度)	1年2年	(前期) (後期)
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数	
必修科目	衛生管理・制度	佐々木 桂子	3単位	99時間

授業の到達目標及びテーマ

美容上必要な衛生管理について理解することにより、美容師国家試験に合格すること。
・美容業に従事するプロフェッショナルとして社会的にも高く評価される人に育つこと。

講義概要

公衆衛生の意義と本質とを明らかにすること

美容師が公衆衛生の維持と増進とについて重大な責務を担わなければならない

特に、環境衛生の意義と目的について、美容師の業務と関連付けながら具体的に理解させる

回 授業計画及び学習の内容

1	公衆衛生	公衆衛生の意義と課題
2	公衆衛生	公衆衛生の発展の歴史
3	公衆衛生	理容師・美容師と公衆衛生
4	保険	母子、成人、高齢者、精神保健
5	環境衛生	環境衛生の概要
6	環境衛生	空気環境
7	環境衛生	衣服・住居の衛生
8	環境衛生	上下水道と廃棄物
9	環境衛生	衛生害虫とネズミ
10	環境衛生	環境保全
11	感染症の総論	人と感染症
12	感染症の総論	病原微生物
13	感染症の総論	感染症の予防
14	感染症の各論	理容・美容と感染症
15	感染症の各論	主な感染症
16	感染症の各論	具体的な対策の例
17	消毒法総論	消毒とは
18	消毒法総論	消毒の意義
19	消毒法総論	理容・美容の義務と消毒との関係
20	消毒法総論	消毒法と適用上の注意
21	消毒法各論	理学的消毒法(殺菌法)
22	消毒法各論	科学的消毒法(殺菌法)
23	消毒法各論	すぐれた消毒法とその実施上の注意
24	消毒法実習	各種消毒薬
25	消毒法実習	理容所の消毒の実際
26	消毒法実習	理容所・美容所の清潔法の実際
27	理容所及び美容所における衛生管理要領	第1目的～第4衛生的取扱い等
28	理容所及び美容所における衛生管理要領	第5消毒～第6自主管理体制
29	理・美容所の自主管理点検票	

成績評価方法

期末試験100点満点として採点し、60点以下の学生は追試とする。

出席評価、素行不良などにより成績評価対象外となるので注意する事

授業の特徴・形式と教員紹介

講義形式を基本とする。国家試験に照準を合わせた授業を行い、適宜、質疑応答を交えるなどして理解の深化を図っている。

コーセー美容専門学校

開講課程

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象	
美容本科	昼間部	昼間28期(2024~2025年度)	1年2年	(前期) (後期)
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数	
必修科目	衛生管理・制度	岡田 博	3単位	99時間

授業の到達目標及びテーマ

美容上必要な衛生管理について理解することにより、美容師国家試験に合格すること。
・美容業に従事するプロフェッショナルとして社会的にも高く評価される人に育つこと。

講義概要

公衆衛生の意義と本質とを明らかにすること

美容師が公衆衛生の維持と増進とについて重大な責務を担わなければならない

特に、環境衛生の意義と目的について、美容師の業務と関連付けながら具体的に理解させる

回 授業計画及び学習の内容

1	公衆衛生	公衆衛生の意義と課題
2	公衆衛生	公衆衛生の発展の歴史
3	公衆衛生	理容師・美容師と公衆衛生
4	保険	母子、成人、高齢者、精神保健
5	環境衛生	環境衛生の概要
6	環境衛生	空気環境
7	環境衛生	衣服・住居の衛生
8	環境衛生	上下水道と廃棄物
9	環境衛生	衛生害虫とネズミ
10	環境衛生	環境保全
11	感染症の総論	人と感染症
12	感染症の総論	病原微生物
13	感染症の総論	感染症の予防
14	感染症の各論	理容・美容と感染症
15	感染症の各論	主な感染症
16	感染症の各論	具体的な対策の例
17	消毒法総論	消毒とは
18	消毒法総論	消毒の意義
19	消毒法総論	理容・美容の義務と消毒との関係
20	消毒法総論	消毒法と適用上の注意
21	消毒法各論	理学的消毒法(殺菌法)
22	消毒法各論	科学的消毒法(殺菌法)
23	消毒法各論	すぐれた消毒法とその実施上の注意
24	消毒法実習	各種消毒薬
25	消毒法実習	理容所の消毒の実際
26	消毒法実習	理容所・美容所の清潔法の実際
27	理容所及び美容所における衛生管理要領	第1目的～第4衛生的取扱い等
28	理容所及び美容所における衛生管理要領	第5消毒～第6自主管理体制
29	理・美容所の自主管理点検票	

成績評価方法

期末試験100点満点として採点し、60点以下の学生は追試とする。

出席評価、素行不良などにより成績評価対象外となるので注意する事

授業の特徴・形式と教員紹介

講義形式を基本とする。国家試験に照準を合わせた授業を行い、適宜、質疑応答を交えるなどして理解の深化を図っている。

薬剤師免許を保持、その知識を生かした授業を展開する。

コーセー美容専門学校

開講課程

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象	
美容本科	昼間部	昼間28期(2024~2025年度)	1年2年	(前期) (後期)
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数	
必修科目	保健	川中 芳枝	3単位	99時間

授業の到達目標及びテーマ

美容師として必要な「人体の構造と機能、皮膚科学」に関する基礎を学習する。人体の生理解剖や皮膚・毛髪などの構造・生理機能の基礎を学ぶ。

講義概要

美容技術の基礎となる人体組織、特に皮膚及び毛髪などの皮膚付属器官の構造と機能に関する科学的、系統的な知識の習得を目的とする美容の業務を安全かつ効果的に行うためには、皮膚、毛髪などに関する正確な科学的知識が不可欠であることを理解させる

回 授業計画及び学習の内容

1	人体の構造及び機能	頭部、顔部、頸部、体表解剖学
2	人体の構造及び機能	骨角器系
3	人体の構造及び機能	筋系
4	人体の構造及び機能	神経系
5	人体の構造及び機能	感覚器系
6	人体の構造及び機能	血液・循環器系
7	人体の構造及び機能	呼吸器系
8	人体の構造及び機能	消化器系
9	皮膚科学	皮膚の構造
10	皮膚科学	皮膚付属器官の構造
11	皮膚科学	皮膚の循環器系と神経系
12	皮膚科学	皮膚と皮膚付属器官の生理機能
13	皮膚科学	皮膚と皮膚付属器官の保健
14	皮膚科学	皮膚と皮膚付属器官の疾患
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		

成績評価方法

期末試験100点満点として採点し、60点以下の学生は追試とする。
出席評価、素行不良などにより成績評価対象外となるので注意する事

授業の特徴・形式と教員紹介

講義形式を基本とする。国家試験に照準を合わせた授業を行い、適宜、質疑応答を交えるなどして理解の深化を図っている。

獣医師としてのキャリアも長く、その中で培った公衆衛生や、感染症、などの知識を生かし

授業を展開する。

コーセー美容専門学校

開講課程

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象	
美容本科	昼間部	昼間28期(2024~2025年度)	1年2年	前期 後期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数	
必修科目	化粧品化学	田辺 篤子	2単位	68時間

授業の到達目標及びテーマ

化粧品の原料や配合、性状、使用目的などについて理解させる。□
さらに化粧品の社会的意義や法的な根拠、製品の安全性に関する知識を深めさせる。
最終目標である国家試験合格に向け、問題解法の応用力を習得させる。

講義概要

化粧品の社会的意義と法規制、および化粧品の安定性と安全性に関して概説する。
化粧品原料(水性原料、油性原料、界面活性剤、高分子化合物、色材、香料etc)について解説する。□
化粧品の各製品形態(基礎化粧品、メイクアップ製品、頭髮化粧品、フレグランス製品、その他)ごとの特徴や配合成分を解説する。□

回 授業計画及び学習の内容

- 1 化粧品概論 化粧品の社会的意義と品質特性
- 2 化粧品概論 化粧品の規則
- 3 化粧品概論 化粧品の安定性と取扱い上の注意
- 4 化粧品概論 化粧品と安全性
- 5 化粧品用原料 化粧品の対象となる人体各部の性状
- 6 化粧品用原料 水性原料
- 7 化粧品用原料 油性原料
- 8 化粧品用原料 界面活性剤
- 9 化粧品用原料 高分子化合物
- 10 化粧品用原料 色材
- 11 化粧品用原料 香料
- 12 化粧品用原料 その他の配合成分
- 13 化粧品用原料 ネイル、まつ毛エクステンション用材料
- 14 基礎化粧品 皮膚清掃用化粧品
- 15 基礎化粧品 化粧水
- 16 基礎化粧品 クリーム乳液
- 17 基礎化粧品 その他の基礎化粧品
- 18 メイクアップ用化粧品 メイクアップ用化粧品の種類と剤形
- 19 メイクアップ用化粧品 ベースメイクアップ化粧品
- 20 メイクアップ用化粧品 ポイントメイクアップ化粧品
- 21 頭皮・毛髪用化粧品 シャンプー剤
- 22 頭皮・毛髪用化粧品 スタイリング剤
- 23 頭皮・毛髪用化粧品 パーマ剤
- 24 頭皮・毛髪用化粧品 ヘアカラー製品
- 25 頭皮・毛髪用化粧品 育毛剤
- 26 芳香製品と特殊化粧品 芳香製品
- 27 芳香製品と特殊化粧品 特殊化粧品
- 28 化粧品化学を理解するための基礎化学
- 29

成績評価方法

期末試験100点満点として採点し、60点以下の学生は追試とする。
出席評価、素行不良などにより成績評価対象外となるので注意する事

授業の特徴・形式と教員紹介

講義形式を基本とする。国家試験に照準を合わせた授業を行い、適宜、質疑応答を交えるなどして理解の深化を図っている。

工学部を卒業し、その後株式会社コーセーで化粧品に関わる業務に従事

そこから培われた知識を元に授業を展開する。

コーセー美容専門学校

開講課程

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象	
美容本科	昼間部	昼間28期(2024~2025年度)	1年2年	前期 後期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数	
必修科目	文化論	木村 智美	2単位	66時間

授業の到達目標及びテーマ

我が国における美容ファッションの変遷について学ぶ。造形の原理、造形と心理、美容における造形の意義
色彩の原理、色彩と心理、美容における色彩を学ぶ。

服飾の原理、美容における服飾の意義などについて理解させる

講義概要

美容業の使命の一人が、より優れた人間美の創造、実現にあることをよく認識させ、この使命の達成のために必要な美的感覚を身に付ける
これを洗練し、芸術的な表現力と鑑賞力を養う

美容の業務を全うするためには、確かな技術力を身に付けるとともに、豊かな感性に裏打ちされた優れた表現力を養うことが必要である

回 授業計画及び学習の内容

1	総論
2	日本の理容業・美容業の歴史 理容業・美容業の発生 江戸時代の理容業・美容業 近代の理容業・美容業 現代の理容業・美容業
3	ファッション文化史日本編 縄文、弥生、古墳時代 古代、中世、近世、近代、現代
4	ファッション文化史西洋編 近世、近代、現代
5	礼装の種類 和装、洋装の礼装
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	
17	
18	
19	
20	
21	
22	
23	
24	
25	
26	
27	
28	
29	
30	

成績評価方法

期末試験100点満点として採点し、60点以下の学生は追試とする。

出席評価、素行不良などにより成績評価対象外となるので注意する事

授業の特徴・形式と教員紹介

講義形式を基本とする。国家試験に照準を合わせた授業を行い、適宜、質疑応答を交えるなどして理解の深化を図っている。

ビューティサロンに10年以上勤務し、その後当校の教員となる。当校で教員として従事しながら

平成9年に日本理容美容教育センターによる美容文化論の教員資格研修を受講し資格を取得する。

取得後、サロン経験と教員経験からくる知識を持って授業に臨んでいる。

コーセー美容専門学校

開講課程

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象	
美容本科	昼間部	昼間28期(2024~2025年度)	1年2年	(前期) (後期)
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数	
必修科目	美容技術理論	大浦 千恵	5単位	163時間

授業の到達目標及びテーマ

人間の手と器具の働き、美容器具の種類と特徴などについて理解させる
 コーム、ヘアブラシ、レザー及びヘアアイロンについて、その種類、各部の名称、使用目的
 形態と機能、選定法、研磨法、基本的操作法、手入れ法などを学ぶ

講義概要

美容技術についての知識を衛生的、能率的に実践する態度と習慣とを養い、工夫と創造の能力とを身に付けさせる
 美容器具の正しい取扱いの方法と美容の基礎的技術とを作業の実際に即して指導し習熟させる
 優れた美容技術は、経験によってだけ得られるものではなく、科学的合理的な方法によって把握されなければならないことを強調すること。

回 授業計画及び学習の内容

- 美容技術理論を学ぶにあたって 美容技術 作業姿勢 人体名称
美容用具 美容技術における用具 コーム、ブラシ、シザーズ、レザー、ピン類、ヘアクリップ、ロッド、ローラー、ヘアアイロン、ヘアドライヤー
ヘアスチーマー、遠赤外線機
- シャンプー シャンプー総論、サイドシャンプー、バックシャンプー、リンス・コンディショナー・トリートメント・スキャルプトリートメント、ヘッドスパ
- ヘアデザイン 美容とデザイン
ヘアカッティング シザーズとレザーの扱い方、美容刃物、プロッキング、ヘアカッティング理論、ベーシックなカット技法、シザーズによる技法
レザーによるカット技法
- パーマントウエービング パーマントウェーブ(歴史、現在、理論) パーマ剤(分類、注意事項)
パーマントウェーブ技術、ワインディングバリエーション、縮毛強制
- ヘアセッティング ヘアセッティングとは、ヘアパーティング、ヘアシェービング、ヘアカーリング、ヘアウエービング、ブロードドライ、アイロンセッティング、バックコーミング、アップスタイル、ウイッグとヘアピース
- ヘアカラーリング ヘアカラーリング概論、ヘアカラーの種類、ヘアカラーのタイプ別特徴、染毛のメカニズム、色の基本
毛髪のレベルとアンダー トーン、パッチテスト、染毛剤使用時の注意事項、ヘアカラーリングの道具、酸化染毛剤の技術手順
酸性染毛料の技術手順、ヘアブリーチ

成績評価方法

期末試験100点満点として採点し、60点以下の学生は追試とする。
 出席評価、素行不良などにより成績評価対象外となるので注意する事

授業の特徴・形式と教員紹介

講義形式を基本とする。国家試験に照準を合わせた授業を行い、適宜、質疑応答を交えるなどして理解の深化を図っている。

美容業界に長年勤務し、その後2019年に当校の教員となり現在まで従事している。

講師としてのキャリアも豊富であり、培われた国家試験のノウハウを駆使し授業を行っている。

コーセー美容専門学校

開講課程

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象	
美容本科	昼間部	昼間28期(2024~2025年度)	1年2年	(前期) (後期)
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数	
必修科目	美容技術理論	藤本 拓希	5単位	163時間

授業の到達目標及びテーマ

人間の手と器具の働き、美容器具の種類と特徴などについて理解させる
コーム、ヘアブラシ、レザー及びヘアアイロンについて、その種類、各部の名称、使用目的
形態と機能、選定法、研磨法、基本的操作法、手入れ法などを学ぶ

講義概要

美容技術についての知識を衛生的、能率的に実践する態度と習慣とを養い、工夫と創造の能力とを身に付けさせる
美容器具の正しい取扱いの方法と美容の基礎的技術とを作業の実際に即して指導し習熟させる
優れた美容技術は、経験によってだけ得られるものではなく、科学的合理的な方法によって把握されなければならないことを強調すること。

回 授業計画及び学習の内容

- 1 美容技術理論を学ぶにあたって 美容技術 作業姿勢 人体名称
美容用具 美容技術における用具 コーム、ブラシ、シザーズ、レザー、ピン類、ヘアクリップ、ロッド、ローラー、ヘアアイロン、ヘアドライヤー
- 2 ヘアスチーマー、遠赤外線機
- 3 シャンプーイング シャンプーイング総論、サイドシャンプー、バックシャンプー、リンス・コンディショナー・トリートメント・スキャルプトリートメント、ヘッドスパ
- 4 ヘアデザイン 美容とデザイン
ヘアカッティング シザーズとレザーの扱い方、美容刃物、プロッキング、ヘアカッティング理論、ベーシックなカット技法、シザーズによる技法
- 5 レザーによるカット技法
- 6 パーマネントウエービング パーマネントウェーブ(歴史、現在、理論) パーマ剤(分類、注意事項)
パーマネントウェーブ技術、ワインディングバリエーション、縮毛強制
- 7 ヘアセッティング ヘアセッティングとは、ヘアパーティング、ヘアシェービング、ヘアカーリング、ヘアウエービング、ブロードドライ、アイロンセッティング、バックコーミング、アップスタイル、ウイッグとヘアピース
- 8 ヘアカラーリング ヘアカラーリング概論、ヘアカラーの種類、ヘアカラーのタイプ別特徴、染毛のメカニズム、色の基本
毛髪のレベルとアンダートーン、パッチテスト、染毛剤使用時の注意事項、ヘアカラーリングの道具、酸化染毛剤の技術手順
酸性染毛料の技術手順、ヘアブリーチ

成績評価方法

期末試験100点満点として採点し、60点以下の学生は追試とする。
出席評価、素行不良などにより成績評価対象外となるので注意する事

授業の特徴・形式と教員紹介

講義形式を基本とする。国家試験に照準を合わせた授業を行い、適宜、質疑応答を交えるなどして理解の深化を図っている。
令和3年入校をした教員であるが、当校に入校する前も美容専門学校で従事しており、教員として能力はある。
1人1人に対して適切な言葉を選び指導のできる教員、授業の中に自分の経験談を織り交ぜるなどし
学生が勉強というものに構えることなく、授業進行する事の出来る教員である。
学校のICT化技術に関して秀でており、新しい学校の形を作り上げる事の出来る教員である。

コーセー美容専門学校

開講課程

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象	
美容本科	昼間部	昼間28期(2024~2025年度)	1年2年	(前期) (後期)
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数	
必修科目	美容技術理論	牛木 巧	5単位	163時間

授業の到達目標及びテーマ

人間の手と器具の働き、美容器具の種類と特徴などについて理解させる
 コーム、ヘアブラシ、レザー及びヘアアイロンについて、その種類、各部の名称、使用目的
 形態と機能、選定法、研磨法、基本的操作法、手入れ法などを学ぶ

講義概要

美容技術についての知識を衛生的、能率的に実践する態度と習慣とを養い、工夫と創造の能力とを身に付けさせる
 美容器具の正しい取扱いの方法と美容の基礎的技術とを作業の実際に即して指導し習熟させる
 優れた美容技術は、経験によってだけ得られるものではなく、科学的合理的な方法によって把握されなければならないことを強調すること。

回 授業計画及び学習の内容

- 美容技術理論を学ぶにあたって 美容技術 作業姿勢 人体名称
美容用具 美容技術における用具 コーム、ブラシ、シザーズ、レザー、ピン類、ヘアクリップ、ロッド、ローラー、ヘアアイロン、ヘアドライヤー
ヘアスチーマー、遠赤外線機
- シャンプー シャンプー総論、サイドシャンプー、バックシャンプー、リンス・コンディショナー・トリートメント・スキャルプトリートメント、ヘッドスパ
- ヘアデザイン 美容とデザイン
ヘアカッティング シザーズとレザーの扱い方、美容刃物、プロッキング、ヘアカッティング理論、ベーシックなカット技法、シザーズによる技法
レザーによるカット技法
- パーマントウエービング パーマントウェーブ(歴史、現在、理論) パーマ剤(分類、注意事項)
パーマントウェーブ技術、ワインディングバリエーション、縮毛強制
- ヘアセッティング ヘアセッティングとは、ヘアパーティング、ヘアシェービング、ヘアカーリング、ヘアウエービング、ブロードドライ、アイロンセッティング、バックコーミング、アップスタイル、ウィッグとヘアピース
- ヘアカラーリング ヘアカラーリング概論、ヘアカラーの種類、ヘアカラーのタイプ別特徴、染毛のメカニズム、色の基本
毛髪のレベルとアンダートーン、パッチテスト、染毛剤使用時の注意事項、ヘアカラーリングの道具、酸化染毛剤の技術手順
酸性染毛料の技術手順、ヘアブリーチ

成績評価方法

期末試験100点満点として採点し、60点以下の学生は追試とする。
 出席評価、素行不良などにより成績評価対象外となるので注意する事

授業の特徴・形式と教員紹介

講義形式を基本とする。国家試験に照準を合わせた授業を行い、適宜、質疑応答を交えるなどして理解の深化を図っている。
美容室に長年勤務し、その後平成18年に当校の教員となり、平成19年に美容技術論の資格を取得する。
今までの経験からくる美容の知識や、現在まで培われた国家試験のノウハウを駆使し授業が行われ
国家試験でも多くの学生を合格に導いている。
学校のムードメーカーでもあり学生からの信頼も厚い

添付書類② 実務経験のある教員等による授業科目の授業計画(シラバス)

コーセー美容専門学校

開講課程

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象	
美容本科	昼間部	昼間28期(2024~2025年度)	1年2年	前期 後期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数	
必修科目	美容技術理論	菅野 絵理	5単位	163時間

授業の到達目標及びテーマ

人間の手と器具の働き、美容器具の種類と特徴などについて理解させる
コーム、ヘアブラシ、レザー及びヘアアイロンについて、その種類、各部の名称、使用目的
形態と機能、選定法、研磨法、基本的操作法、手入れ法などを学ぶ

講義概要

美容技術についての知識を衛生的、能率的に実践する態度と習慣とを養い、工夫と創造の能力とを身に付けさせる
美容器具の正しい取扱いの方法と美容の基礎的技術とを作業の実際に即して指導し習熟させる
優れた美容技術は、経験によってだけ得られるものではなく、科学的合理的な方法によって把握されなければならないことを強調すること。

回 授業計画及び学習の内容

1	美容技術理論を学ぶにあたって 美容技術 作業姿勢 人体名称 美容用具 美容技術における用具 コーム、ブラシ、シザーズ、レザー、ピン類、ヘアクリップ、ロッド、ローラー、ヘアアイロン、ヘアドライヤー
2	ヘアスチーマー、遠赤外線機
3	シャンプーイング シャンプーイング総論、サイドシャンプー、バックシャンプー、リンス・コンディショナー・トリートメント・スカルプトリートメント、ヘッドスパ
4	ヘアデザイン 美容とデザイン
5	ヘアカッティング シザーズとレザーの扱い方、美容刃物、ブロッキング、ヘアカッティング理論、ベーシックなカット技法、シザーズによる技法 レザーによるカット技法
6	パーマメントウエービング パーマメントウェーブ(歴史、現在、理論) パーマ剤(分類、注意事項) パーマメントウェーブ技術、ワインディングバリエーション、縮毛強制
7	ヘアセッティング ヘアセッティングとは、ヘアパーティング、ヘアシェービング、ヘアカーリング、ヘアウエービング、ブロードライ、アイロンセッティング、バックコーミング、アップスタイル、ウィッグとヘアピース
8	ヘアカラーリング ヘアカラーリング概論、ヘアカラーの種類、ヘアカラーのタイプ別特徴、染毛のメカニズム、色の基本 毛髪のレベルとアンダートーン、パッチテスト、染毛剤使用時の注意事項、ヘアカラーリングの道具、酸化染毛剤の技術手順 酸性染毛料の技術手順、ヘアプリーチ

成績評価方法

期末試験100点満点として採点する。授業態度の総合評価
出席評価、素行不良などにより成績評価対象外となるので注意する事

授業の特徴・形式と教員紹介

基礎技術から応用技術まで、実技理論に基づきモデルウィッグを使つてのトレーニングを行い、
相モデル形式での実践トレーニングなど適宜取り入れる。

2023年6月より当校の教員となり現在まで従事している。実直な人柄で学生からの信頼も厚い。
新しい知識SNSなどの活用も明るく、新しい価値観を持った教員である。だからと言ってひけらかす事はない。
これからの新しい学校を作っていく教員である。

コーセー美容専門学校

開講課程

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象	
美容本科	昼間部	昼間28期(2024~2025年度)	1年2年	(前期) (後期)
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数	
必修科目	美容技術理論	後藤 由歌	5単位	163時間

授業の到達目標及びテーマ

人間の手と器具の働き、美容器具の種類と特徴などについて理解させる
コーム、ヘアブラシ、レザー及びヘアアイロンについて、その種類、各部の名称、使用目的
形態と機能、選定法、研磨法、基本的操作法、手入れ法などを学ぶ

講義概要

美容技術についての知識を衛生的、能率的に実践する態度と習慣とを養い、工夫と創造の能力とを身に付けさせる
美容器具の正しい取扱いの方法と美容の基礎的技術とを作業の実際に即して指導し習熟させる
優れた美容技術は、経験によってだけ得られるものではなく、科学的合理的な方法によって把握されなければならないことを強調すること。

回 授業計画及び学習の内容

- 1 美容技術理論を学ぶにあたって 美容技術 作業姿勢 人体名称
美容用具 美容技術における用具 コーム、ブラシ、シザーズ、レザー、ピン類、ヘアクリップ、ロッド、ローラー、ヘアアイロン、ヘアドライヤー
- 2 ヘアスチーマー、遠赤外線機
- 3 シャンプーイング シャンプーイング総論、サイドシャンプー、バックシャンプー、リンス・コンディショナー・トリートメント・スキャルプトリートメント、ヘッドスパ
- 4 ヘアデザイン 美容とデザイン
ヘアカッティング シザーズとレザーの扱い方、美容刃物、プロッキング、ヘアカッティング理論、ベーシックなカット技法、シザーズによる技法
- 5 レザーによるカット技法
- 6 パーマネントウエービング パーマネントウェーブ(歴史、現在、理論) パーマ剤(分類、注意事項)
パーマネントウェーブ技術、ワインディングバリエーション、縮毛強制
- 7 ヘアセッティング ヘアセッティングとは、ヘアパーティング、ヘアシェービング、ヘアカーリング、ヘアウエービング、ブロードドライ、アイロンセッティング、バックコーミング、アップスタイル、ウィッグとヘアピース
- 8 ヘアカラーリング ヘアカラーリング概論、ヘアカラーの種類、ヘアカラーのタイプ別特徴、染毛のメカニズム、色の基本
毛髪のレベルとアンダートーン、パッチテスト、染毛剤使用時の注意事項、ヘアカラーリングの道具、酸化染毛剤の技術手順
酸性染毛料の技術手順、ヘアブリーチ

成績評価方法

期末試験100点満点として採点し、60点以下の学生は追試とする。
出席評価、素行不良などにより成績評価対象外となるので注意する事

授業の特徴・形式と教員紹介

講義形式を基本とする。国家試験に照準を合わせた授業を行い、適宜、質疑応答を交えるなどして理解の深化を図っている。
美容室に長年勤務し、その後平成14年に当校の教員となり、同年に美容技術理論の資格を取得する。
今までの経験からくる美容の知識や、現在まで培われた国家試験のノウハウを駆使し授業が行われ
国家試験でも多くの学生を合格に導いている。
当校の課長職にも就任し学校全体を見渡す存在になった。

コーセー美容専門学校

開講課程

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象	
美容本科	昼間部	昼間28期(2024~2025年度)	1年2年	○前期 ○後期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数	
必修科目	運営管理	牛木 巧	1単位	36時間

授業の到達目標及びテーマ

経営戦略の基本的理論について、美容業における実例を交えて理解させる
 社会生活におけるエチケットの必要性、職場など社会生活の各局面におけるエチケットなどについて理解させる
 美容業における接客の意義と技術について具体的事例を挙げながら学ばせる

講義概要

経営管理の基本的事項を学習することによって、美容業における科学的な経営管理手法の重要性を認識させ、美容所の経営に役立たせること
 美容業において、適切な接客態度がいかに重要であるかを自覚させるとともに、消費者対応の基本を学ばせ、実践する能力を身に付けさせること

回 授業計画及び学習の内容

- 1 経営とは・経営者とは 経営が必要とされる理由
- 2 経営とは・経営者とは 継続が難しい理由=経営が必要な理由
- 3 経営とは・経営者とは 経営とは何か
- 4 経営とは・経営者とは 経営資源と経営計画
- 5 経営とは・経営者とは 経営戦略
- 6 経営とは・経営者とは 経営戦略が目指すもの、顧客に選ばれるよい店の実現
- 7 理容業・美容業の経営について 業界の概要
- 8 理容業・美容業の経営について 競争の変化
- 9 理容業・美容業の経営について サービスとして理容・美容
- 10 理容業・美容業の経営について 理容業・美容業の顧客について
- 11 資金と管理 資金管理の重要性
- 12 資金と管理 収支と損益 会計の考え方 コストを管理する 税金について
- 13 人という資源 人という資源とは 人の能力を高める 人をやる気にさせるために
- 14 人という資源 給与 待遇・福利厚生 労働者の権利
- 15 健康・安全な職場環境の実現 健康管理の基礎
- 16 健康・安全な職場環境の実現 理容・美容の仕事と健康
- 17 健康・安全な職場環境の実現 理容業・美容業に特徴的な健康課題
- 18 健康・安全な職場環境の実現 理容・美容の仕事と健康美容の作業環境に関する健康問題
- 19 従業員としての視点から 社会人としての責任・理容業・美容業の従業員としての責任
- 20 従業員としての視点から 社会保険～公的年金～ ～医療保険～ ～労働保険～
- 21 従業員としての視点から キャリアプランの重要性
- 22 従業員としての視点から 仕事をするうえで考えるべきこと
- 23 サービスデザイン 顧客が求める価値 価値の実態 顧客満足の実現のためのシステム 最も重要な価値:人
- 24 サービスデザイン 価値の多様性 顧客が求めるもの サービスの範囲 理容業・美容業のマーケティング
- 25 マーケティング マーケティング・ミックス
- 26 マーケティング マーケティング・ミックスの要因 短期的要因① 短期的要因② 長期的要因① 長期的要因② サービスのシステム化
- 27 サービスにおける人の役割 接客についての理解、よい接客のために
- 28 サービスにおける人の役割 接客の実践①②③④⑤
- 29 サービスにおける人の役割 接客におけるトラブルと対応、接客で発生が予想される問題
- 30 サービスにおける人の役割 問題を深刻化させないための対策・対処

成績評価方法

期末試験100点満点として採点し、60点以下の学生は追試とする。
 出席評価、素行不良などにより成績評価対象外となるので注意する事

授業の特徴・形式と教員紹介

講義形式を基本とする。国家試験に照準を合わせた授業を行い、適宜、質疑応答を交えるなどして理解の深化を図っている。

美容室に長年勤務し、その後平成18年に当校の教員となり、令和元年に運営管理の資格を取得する。

今までの経験からくる美容の知識や、現在まで培われた国家試験のノウハウを駆使し授業が行われ

国家試験でも多くの学生を合格に導いている。

学校のムードメーカーでもあり学生からの信頼も厚い

添付書類② 実務経験のある教員等による授業科目の授業計画(シラバス)

コーセー美容専門学校

開講課程

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象	
美容本科	昼間部	昼間28期(2024～2025年度)	前期	後期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数	
必修科目	美容実習	大浦 千恵	30単位	992時間

授業の到達目標及びテーマ

美容の業務を安全かつ効果的に実施する技術を習得するため、基本的操作を確実に身に付けさせ、理解することにより、美容師国家試験に合格すること。

・美容業に従事するプロフェッショナルとして社会的にも高く評価される人に育つこと。

講義概要

美容の業務を安全かつ効果的に実施する技術を習得するため、基本的操作を確実に身に付けさせるとともに、これらの基本的操作を適宜組み合わせることで完成させる技術を習得させること美容所における衛生管理の重要性を認識させ、器具の消毒などの適切な実施方法を身に付けさせること。個々の客の要望に応じた美容技術を提供できるよう総合的な技術の基礎を身に付けさせること。

回	授業計画及び学習の内容
1	ワインディング基礎技術
2	ブッキング技術
3	上巻き
4	下巻き
5	全体構成
6	タイム計測
7	セット技術
8	カーラー・ホットカラー
9	編み込テクニック
10	シニヨン
11	トップシニヨン
12	ネープシニヨン
13	ロールシニヨン
14	ワンロール
15	夜会巻き
16	抱き合わせ
17	アイロンテクニック
18	ブライダルヘアテクニック
19	シャンプー・ブロー技術
20	サイドシャンプー
21	バックシャンパー
22	ブローテクニック
23	ハンドブローテクニック
24	スタイリング剤の使い方
25	ヘアカラーリング基礎技術
26	ファッションカラー(ワンタッチ・リタッチ技術)
27	グレイヘア(リタッチ技術)
28	酸性カラー
29	ヘアカラーリング応用技術(ブリーチ・ウィービング・メッシュテクニック他)
30	パーマントウェーブ基礎技術(デザイン巻きテクニック)
31	パーマントウェーブ応用技術
32	ヘアカッティング技術(ワンレングス・グラデーション・レイヤーカット)
33	国家試験第1課題(レイヤーカッティング)
34	国家試験第2課題(オールウェーブセッティング・ワインディング)
35	国家試験対策授業

成績評価方法

期末試験100点満点として採点する。授業態度の総合評価
出席評価、素行不良などにより成績評価対象外となるので注意する事

授業の特徴・形式と教員紹介

基礎技術から応用技術まで、実技理論に基づきモデルウィッグを使ってのトレーニングを行い、相モデル形式での実践トレーニングなど適宜取り入れる。

学生それぞれに対し具体的な指示がだせる教員、学生が理解に苦しむ事が少なく、答えに導ける力を有している。
常に事柄の2歩3歩先を思い描き、学生と対話をしながら目標に進んでいく。そういった事から学生からの信頼は厚い教員である。

添付書類② 実務経験のある教員等による授業科目の授業計画(シラバス)

コーセー美容専門学校

開講課程

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象	
美容本科	昼間部	昼間28期(2024~2025年度)	前期	後期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数	
必修科目	美容実習	藤本 拓希	30単位	992時間

授業の到達目標及びテーマ

美容の業務を安全かつ効果的に実施する技術を習得するため、基本的操作を確実に身に付けさせ、理解することにより、美容師国家試験に合格すること。

・美容業に従事するプロフェッショナルとして社会的にも高く評価される人に育つこと。

講義概要

美容の業務を安全かつ効果的に実施する技術を習得するため、基本的操作を確実に身に付けさせるとともに、これらの基本的操作を適宜組み合わせることで完成させる技術を習得させること美容所における衛生管理の重要性を認識させ、器具の消毒などの適切な実施方法を身に付けさせること。個々の客の要望に応じた美容技術を確実に提供できるよう総合的な技術の基礎を身に付けさせること。

回	授業計画及び学習の内容
1	ワインディング基礎技術
2	ブロッキング技術
3	上巻き
4	下巻き
5	全体構成
6	タイム計測
7	セット技術
8	カーラー・ホットカラー
9	編み込テクニック
10	シニヨン
11	トップシニヨン
12	ネーブシニヨン
13	ロールシニヨン
14	ワンロール
15	夜会巻き
16	抱き合わせ
17	アイロンテクニック
18	ブライダルヘアテクニック
19	シャンプー・ブロー技術
20	サイドシャンプー
21	バックシャンパー
22	ブローテクニック
23	ハンドブローテクニック
24	スタイリング剤の使い方
25	ヘアカラーリング基礎技術
26	ファッションカラー(ワンタッチ・リタッチ技術)
27	グレイヘア(リタッチ技術)
28	酸性カラー
29	ヘアカラーリング応用技術(ブリーチ・ウィービング・メッシュテクニック他)
30	パーマントウェーブ基礎技術(デザイン巻きテクニック)
31	パーマントウェーブ応用技術
32	ヘアカッティング技術(ワンレングス・グラデーション・レイヤーカット)
33	国家試験第1課題(レイヤーカッティング)
34	国家試験第2課題(オールウェーブセッティング・ワインディング)
35	国家試験対策授業

成績評価方法

期末試験100点満点として採点する。授業態度の総合評価
出席評価、素行不良などにより成績評価対象外となるので注意する事

授業の特徴・形式と教員紹介

基礎技術から応用技術まで、実技理論に基づきモデルウィッグを使ってのトレーニングを行い、相モデル形式での実践トレーニングなど適宜取り入れる。

令和3年入校をした教員であるが、当校に入校する前も美容専門学校で従事しており、教員として能力はある。

1人1人に対して適切な言葉を選び指導のできる教員、授業の中に自分の経験談を織り交ぜるなどし

学生が勉強というものに構えることなく、授業進行する事の出来る教員である。

学校のICT化技術に関しても秀でており、新しい学校の形を作り上げる事の出来る教員である。

添付書類② 実務経験のある教員等による授業科目の授業計画(シラバス)

コーセー美容専門学校

開講課程

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象	
美容本科	昼間部	昼間28期(2024~2025年度)	前期	後期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数	
必修科目	美容実習	牛木 巧	30単位	992時間

授業の到達目標及びテーマ

美容の業務を安全かつ効果的に実施する技術を習得するため、基本的操作を確実に身に付けさせ、理解することにより、美容師国家試験に合格すること。

・美容業に従事するプロフェッショナルとして社会的にも高く評価される人に育つこと。

講義概要

美容の業務を安全かつ効果的に実施する技術を習得するため、基本的操作を確実に身に付けさせるとともに、これらの基本的操作を適宜組み合わせることで完成させる技術を習得させること美容所における衛生管理の重要性を認識させ、器具の消毒などの適切な実施方法を身に付けさせること。個々の客の要望に応じた美容技術を確実に提供できるように総合的な技術の基礎を身に付けさせること。

回	授業計画及び学習の内容
1	ワインディング基礎技術
2	ブロッキング技術
3	上巻き
4	下巻き
5	全体構成
6	タイム計測
7	セット技術
8	カーラー・ホットカラー
9	編み込テクニック
10	シニヨン
11	トップシニヨン
12	ネーブシニヨン
13	ロールシニヨン
14	ワンロール
15	夜会巻き
16	抱き合わせ
17	アイロンテクニック
18	ブライダルヘアテクニック
19	シャンプー・ブロー技術
20	サイドシャンプー
21	バックシャンパー
22	ブローテクニック
23	ハンドブローテクニック
24	スタイリング剤の使い方
25	ヘアカラーリング基礎技術
26	ファッションカラー(ワンタッチ・リタッチ技術)
27	グレイヘア(リタッチ技術)
28	酸性カラー
29	ヘアカラーリング応用技術(ブリーチ・ウィービング・メッシュテクニック他)
30	パーマントウェーブ基礎技術(デザイン巻きテクニック)
31	パーマントウェーブ応用技術
32	ヘアカッティング技術(ワンレングス・グラデーション・レイヤーカット)
33	国家試験第1課題(レイヤーカッティング)
34	国家試験第2課題(オールウェーブセッティング・ワインディング)
35	国家試験対策授業

成績評価方法

期末試験100点満点として採点する。授業態度の総合評価
出席評価、素行不良などにより成績評価対象外となるので注意する事

授業の特徴・形式と教員紹介

基礎技術から応用技術まで、実技理論に基づきモデルウィッグを使ってのトレーニングを行い、相モデル形式での実践トレーニングなど適宜取り入れる。

美容室に長年勤務し、その後平成18年に当校の教員となる。

今までの経験からくる美容の知識や、現在まで培われた国家試験のノウハウを駆使し授業が行われ

国家試験でも多くの学生を合格に導いている。

学校のムードメーカーでもあり学生からの信頼も厚い

添付書類② 実務経験のある教員等による授業科目の授業計画(シラバス)

コーセー美容専門学校

開講課程

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象	
美容本科	昼間部	昼間28期(2024~2025年度)	前期	後期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数	
必修科目	美容実習	菅野 絵理	30単位	992時間

授業の到達目標及びテーマ

美容の業務を安全かつ効果的に実施する技術を習得するため、基本的操作を確実に身に付けさせ、理解することにより、美容師国家試験に合格すること。

・美容業に従事するプロフェッショナルとして社会的にも高く評価される人に育つこと。

講義概要

美容の業務を安全かつ効果的に実施する技術を習得するため、基本的操作を確実に身に付けさせるとともに、これらの基本的操作を適宜組み合わせることで完成させる技術を習得させること美容所における衛生管理の重要性を認識させ、器具の消毒などの適切な実施方法を身に付けさせること。個々の客の要望に応じた美容技術を確実に提供できるよう総合的な技術の基礎を身に付けさせること。

回	授業計画及び学習の内容
1	ワインディング基礎技術
2	ブロッキング技術
3	上巻き
4	下巻き
5	全体構成
6	タイム計測
7	セット技術
8	カーラー・ホットカラー
9	編み込テクニック
10	シニヨン
11	トップシニヨン
12	ネーブシニヨン
13	ロールシニヨン
14	ワンロール
15	夜会巻き
16	抱き合わせ
17	アイロンテクニック
18	ブライダルヘアテクニック
19	シャンプー・ブロー技術
20	サイドシャンプー
21	バックシャンプー
22	ブローテクニック
23	ハンドブローテクニック
24	スタイリング剤の使い方
25	ヘアカラーリング基礎技術
26	ファッションカラー(ワンタッチ・リタッチ技術)
27	グレイヘア(リタッチ技術)
28	酸性カラー
29	ヘアカラーリング応用技術(ブリーチ・ウィービング・メッシュテクニック他)
30	パーマントウェーブ基礎技術(デザイン巻きテクニック)
31	パーマントウェーブ応用技術
32	ヘアカッティング技術(ワンレングス・グラデーション・レイヤーカット)
33	国家試験第1課題(レイヤーカッティング)
34	国家試験第2課題(オールウェーブセッティング・ワインディング)
35	国家試験対策授業

成績評価方法

期末試験100点満点として採点する。授業態度の総合評価
出席評価、素行不良などにより成績評価対象外となるので注意する事

授業の特徴・形式と教員紹介

基礎技術から応用技術まで、実技理論に基づきモデルウィッグを使ってのトレーニングを行い、相モデル形式での実践トレーニングなど適宜取り入れる。

2023年6月より当校の教員となり現在まで従事している。実直な人柄で学生からの信頼も厚い。

新しい知識SNSなどの活用も明るく、新しい価値観を持った教員である。だからと言ってひけらかす事はない。

これからの新しい学校を作っていく教員である。

コーセー美容専門学校

開講課程

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象	
美容本科	昼間部	昼間28期(2024~2025年度)	1年2年	前期 後期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数	
必修科目	アドバンスプログラム	尾花 洋子	20単位	712時間

授業の到達目標及びテーマ

必修科目において習得した基礎的な専門知識や技術を基に、さらに高度な専門知識や技術を身に付けさせる高度な美容技術を確実に実施する能力を身に付ける

講義概要

一般教養科目は、社会生活における基本的規範やコミュニケーション技術などを学ぶことによって、

社会人としての心構えを養い、さらに、専門的技術者としての自覚を促すとともに、芸術、文化など幅広い教養を身に付けることによって、人間性豊かな人格の形成を目指すものであること。

専門教育科目は、必修科目において習得した基礎的な専門知識や技術を基に、さらに高度な専門知識や技術を身に付けさせるものであること科学的基礎に裏付けられた高度な美容技術を確実に実施する能力を身に付けるばかりでなく、これらを活用して新たな技術を開発するための総合的能力を習得させること。

回

授業計画及び学習の内容

- 1 エステティック 皮膚の生理と構造 カウンセリング マッサージ理論 フェイシャルケア技術 フェイシャル及びデコルテマッサージ
- 2 エステティック フェイシャルパック ボディケア技術 ボディマッサージ
- 3 ネイル技術 ネイル技術概論、ネイル技術の種類、詰め構造と機能、詰めのカット形状、ネイル技術と公衆衛生
- 4 ネイル技術 カウンセリング、ネイルケア、アーティフィシャルネイル、手と足のマッサージ
- 5 メイクアップ メイクアップ概論、顔の形態学的な観察、メイクアップと色彩、皮膚の生理と構造、メイクアップの道具
- 6 メイクアップ スキンケア、ベースメイクアップ、アイメイクアップ、アイブロウメイクアップ
- 7 メイクアップ リップメイクアップ、ブラッシュオンメイクアップ、まつ毛エクステンション
- 8 日本髪 日本髪の由来、日本髪の各部の名称、日本髪の種類と特徴、日本髪と調和
- 9 日本髪 日本髪の装飾品、日本髪の結髪道具、日本髪の手入れ、かつら
- 10 着付けの理論と技術 着付けの目的、礼装、着物と季節、着物のいろいろ、帯、小物
- 11 着付けの理論と技術 着物各部の名称、着物のたたみ方、着付けの一般的要領
- 12 着付けの理論と技術 留袖着付け技術、振袖着付け技術、帯締め、帯揚げの結び方
- 13 着付けの理論と技術 男子礼装羽織、袴着付け技術、羽織の紐の結び方
- 14 着付けの理論と技術 女子袴着付け技術、婚礼着付けの注意事項
- 15 着付けの理論と技術 和装花嫁、洋装花嫁
- 16 美容モード理論 ファッション学 基礎、応用
- 17 美容モード理論 パーソナルカラー 基礎 応用
- 18 美容モード理論 ヘアデザイン
- 19 接客接遇
- 20 試験対策
- 21 一般教養
- 22 各選択

成績評価方法

期末試験100点満点または作品提出で採点する。授業態度の総合評価
出席評価、素行不良などにより成績評価対象外となるので注意する事

授業の特徴・形式と教員紹介

メイクアップ: エステティック技法、ネイル技術、着付け、メイクアップ技術を、座学と技術を駆使して進めていく。

トータルビューティ: ファッション学、パーソナルカラー、ヘアデザインに対して美容実習、文化論で学んだ基礎の応用を学ぶ

アドバンスプログラム: 専門的な技術の習得を目指す。

平成11年より当校で教員として従事、美容技術理論、美容実習、美容保健、美容文化論、美容運営管理といった多くの資格を有し

幅広い知識の持ち主である。単元別に教員の采配をし学生の感性に訴えた授業を行う。